

陸前高田市まちづくりプラットフォーム

2015 年度 支援概況マッピング 活動履歴・アンケート 集計結果

2016 年 6 月

集計・作成：陸前高田市まちづくりプラットフォーム事務局

■ 支援概況マッピング 活動履歴フォーム・アンケート集計結果

陸前高田市まちづくりプラットフォーム（旧・陸前高田市ネットワーク連絡会）では、2011年度から登録団体を対象に、市内の支援活動における「いつ」「どこで」「だれが」「どんなことを」「どうやって」行っているか、その状況を把握するための支援概況調査（マッピング）を実施してきました。

2015年度は、2013年度と2014年度の調査を踏襲し、地域別／分野別の割合に加えて、支援実施にいたる背景、支援提供時（事業実施時）の連携の有無と内容、支援内容の収束または内容切替えの動向や、活動が地域にもたらした変化などについても、アンケートを通じた状況把握を試みています。2015年度は累計48団体の会員登録団体の協力のもと、本資料を作成することができました。心より感謝申し上げます。

以下に調査概況・集計結果・アンケート結果をまとめましたので、ご高覧頂けますと幸いです。今回の調査結果が、陸前高田市の復興・まちづくりの一助となりますことを切に願っております。

※調査実施期間：2016年2～3月 / 活動対象期間：2015年2月～2016年1月

（ご留意いただきたいこと）

- ・ 本調査は、陸前高田市まちづくりプラットフォーム会員登録団体からの回答をもとに集計を行っています。陸前高田市における支援の「すべて」を「完全に」網羅しているものではありませんので、傾向としてご高覧下さい。
- ・ 活動内容別割合の円グラフについて、グラフ内の数値合計が100に満たない、または超える箇所がございます。円グラフ作成の仕様（パーセンテージの数値四捨五入）につき、あらかじめご承知おき下さい。
- ・ 集計内容に関するお問い合わせにつきましては、陸前高田市まちづくりプラットフォーム事務局までお願いいたします。なお、団体情報保護の観点から、詳細についてご回答いたしかねる場合がございます。

（お問い合わせ先）

陸前高田市まちづくりプラットフォーム 事務局

メール（推奨）：rtmachip@gmail.com

電話：0192-47-4776（日祝休）

■ 支援カテゴリ

・それぞれの支援カテゴリの定義は、以下の通りです（全 21 カテゴリ＋その他）。

項目名	内容
物資配布	物資の配布、配布そのものが目的の場合に限る。（例：衣料品、食料品、生活用品、暖房器具等）
炊出し	飲食物の炊き出し
保健・医療	疾病の予防を目的として行われるサービス・事業（健康予防、健康増進、体調管理など）、および医療行為（身体・精神）
福祉	保健医療サービスを補うために行なわれるサービス（例：病院移送、ケアセンター、訪問介護）
子育て	未就学児の「保育」や預かり、母子保健に関する支援・相談・環境整備（例：託児所、地域子育て支援拠点、母子健康相談、子育て講座）
教育	就学児の学校教育、教育に関する公的機関が協働（主催・共催）している事業、部活動など、学校の枠組みで行われる事業への支援 （例：各教育機関、夜間教育支援事業、部活動バス代や備品の支援）
子ども全般	準学校教育（社会教育・野外活動）、子どもの年齢横断的なネットワーク （例：放課後学童クラブ、発達障がいのサポート、キャンプ活動、図書館、集会所での居場所活動）
住環境整備	仮設住宅まわりの設備・環境支援（屋根・柵・スロープの設置等）
法律	法律相談、法律説明会、その他生活再建に関する専門家相談、窓口の開設、法律勉強会、個別相談会の実施、被災者向け支援制度の利用促進活動等
女性支援	女性の自立支援、雇用促進、男女共同参画の推進
雇用・生業支援	就職のための実践的なノウハウやアドバイス、人材派遣・教育、事業再建支援、失業者の就職支援、就業のための技術講習・情報提供
収入創出	手仕事・起業支援等、スモールビジネスの実施・協働、企画・販路開拓
産業全般	産官学マッチング、産業分野横断的なネットワーク、産業全般に対するアドバイス
コミュニティづくり	趣味実用、生きがい・やりがいづくり（畑づくり等）、交流会・サロンの開催など
生活支援	主に「個別ニーズ」に基づいた視点での生活上での支援活動（個別ニーズの普遍化による支援/サービス提供も含む） （例：団体戸別見回り、物資支援、移動支援、足湯、傾聴）
キャパビル（講習・研修）	住民向けの講習・研修・勉強会等
情報	住民に対する全般的な情報提供（例：新聞発行など）、情報発信のお手伝い（情報の拡散・媒体への掲載）
場所貸し	市民活動のための場所の提供
ボランティア派遣	住民ニーズに基づくボランティア派遣活動
窓口・取次ぎ	住民向け窓口・相談対応や支援のマッチング（有識者・団体の紹介や、相談に応じた情報の提供など）
災害時要援護者支援	高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、傷病者、母語が日本語でない人など、災害時に自力で避難することが困難な人に特化した支援（例：手話を使った避難誘導のレクチャー、在住外国人に避難関連表示の見方を教える活動など）
その他	上記以外のもの

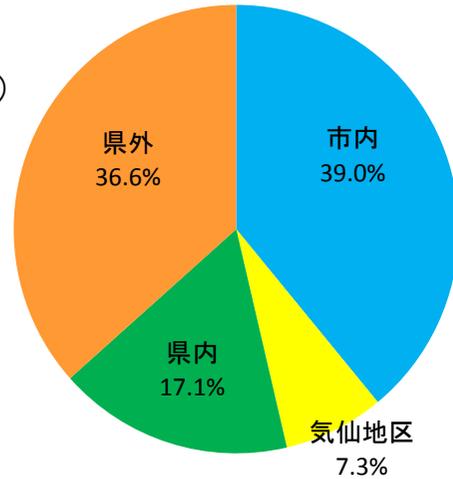
■ 調査概況

1. 活動履歴

・回答数 41 団体 (前年比 114%)

・回答団体内訳

市内	16
気仙地区	3
県内	7
県外	15

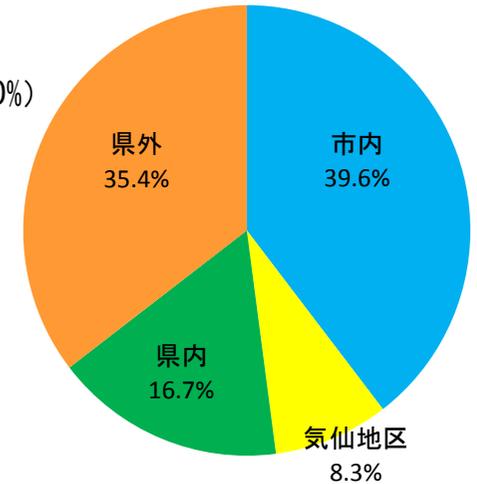


2. アンケート

・回答数 48 団体 (前年比 130%)

・回答団体内訳

市内	19
気仙地区	4
県内	8
県外	17

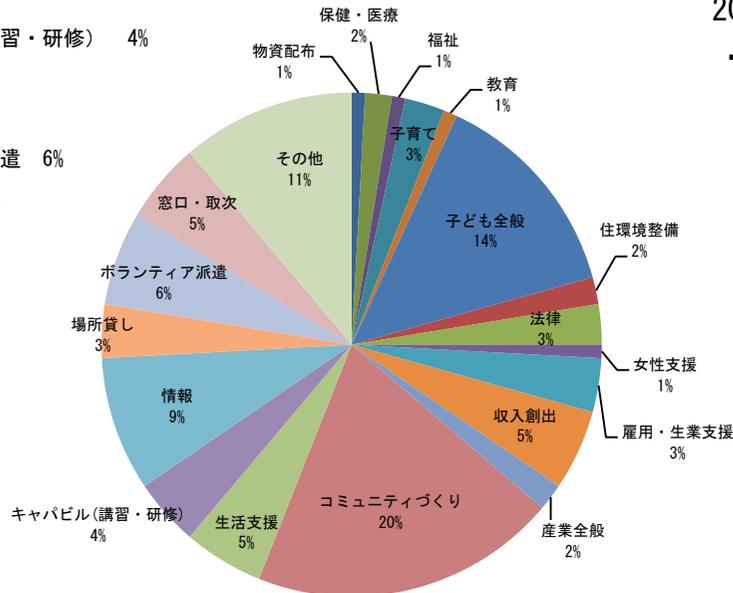


・カテゴリ別内訳

(※団体が複数の支援カテゴリを選択している場合、カテゴリごとに1カウント)

- ・物資配布 1%
- ・保健・医療 2%
- ・福祉 1%
- ・子育て 3%
- ・教育 1%
- ・子ども全般 14%
- ・住環境整備 2%
- ・法律 3%
- ・女性支援 1%
- ・雇用・生業支援 3%
- ・収入創出 5%
- ・産業全般 2%
- ・コミュニティづくり 20%
- ・生活支援 5%

- ・キャバピル (講習・研修) 4%
- ・情報 9%
- ・場所貸し 3%
- ・ボランティア派遣 6%
- ・窓口・取次 5%
- ・その他 11%



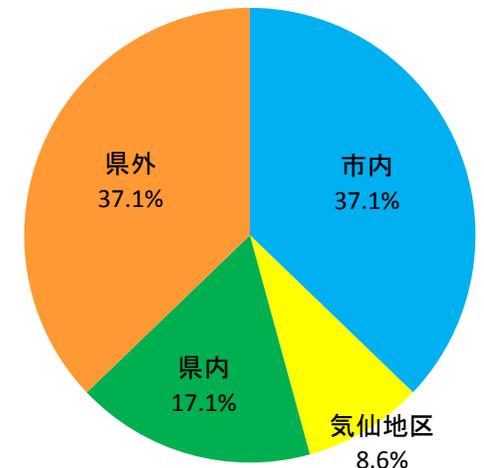
<参考>

陸前高田市まちづくりプラットフォーム

2015 年度登録団体数 70 団体

・団体内訳

市内	26
気仙地区	6
県内	12
県外	26



2015年度 陸前高田市支援概況マッピング 支援団体分布図

＜横田町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【キャバ】
遠野まごころネット	【子全般】
パクト	【物】
まあむたかた	【法】【コミュ】【保・医】
陸前高田市青年団体協議会	【コミュ】
いわて生活協同組合	【炊】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【コミュ】
岩手県司法書士会	【法】
東北大学	【コミュ】
陸前高田応援サークルぽかぽか	【コミュ】
神戸大学 東北ボランティア	【コミュ】
バスプロジェクト	【コミュ】
岩手大学	【コミュ】
いわて三陸ひまわり基金	【法】
法律事務所	【法】
ハマトラ横浜フットボール	【子全般】【コミュ】
ネットワーク	【子全般】【コミュ】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
健康生活ネットおおふなと	【教】【保・医】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

＜竹駒町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【ボラ】【キャバ】
遠野まごころネット	【子全般】
パクト	【物】
まあむたかた	【法】【コミュ】
いわて生活協同組合	【キャバ】【保・医】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【住】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【コミュ】【ボラ】
岩手県司法書士会	【法】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
東北大学	【コミュ】【生活】
陸前高田応援サークルぽかぽか	【コミュ】
神戸大学 東北ボランティア	【コミュ】
バスプロジェクト	【コミュ】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金	【法】
法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
日本ユニセフ協会/ 岩手県ユニセフ協会	【キャバ】【子全般】
健康生活ネットおおふなと	【教】
ひまわりハウス	【場】【収】
もっちいと森の仲間たち	【住】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

＜米崎町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
遠野まごころネット	【子全般】
パクト	【物】
まあむたかた	【法】【キャバ】
再生の里ヤルキタウン	【保・医】【女】
桜ライン311	【コミュ】【教】【住】
陸前高田市青年団体協議会	【他】
いわて生活協同組合	【コミュ】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【コミュ】【炊】【ボラ】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】
岩手県司法書士会	【生活】【ボラ】【収】
東北大学	【法】
陸前高田応援サークルぽかぽか	【コミュ】【生活】
神戸大学 東北ボランティア	【コミュ】
バスプロジェクト	【コミュ】
岩手大学	【コミュ】【情】
いわて三陸ひまわり基金	【法】
法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
NICE	【子全般】【産業】
教育支援チーム「まつ」	【物】
健康生活ネットおおふなと	【教】
子どもグリーフサポートステーション	【子全般】
もっちいと森の仲間たち	【物】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

＜小友町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【キャバ】
遠野まごころネット	【ボラ】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】【窓・取】【生活】
パクト	【子全般】【物】
まあむたかた	【法】【キャバ】【保・医】
桜ライン311	【他】
いわて生活協同組合	【コミュ】【炊】【ボラ】【他】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【住】【コミュ】【ボラ】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【ボラ】
岩手県司法書士会	【コミュ】【収】
シャンティ国際ボランティア会	【法】
東北大学	【他】
陸前高田応援サークルぽかぽか	【子全般】
神戸大学 東北ボランティア	【コミュ】
バスプロジェクト	【コミュ】
岩手大学	【ボラ】【情】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金	【法】
法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
前田建設工業株式会社	【ボラ】
もっちいと森の仲間たち	【物】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

＜矢作町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
パクト	【子全般】【物】
まあむたかた	【法】【保・医】
いわて生活協同組合	【コミュ】【炊】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【収】
岩手県司法書士会	【法】
岩手大学	【子全般】【コミュ】
いわて三陸ひまわり基金	【ボラ】【他】
法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
NICE	【他】
もっちいと森の仲間たち	【他】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

＜気仙町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【ボラ】【キャバ】
遠野まごころネット	【子全般】
パクト	【子全般】【物】
にじのライブラリー	【子全般】【収】【コミュ】
まあむたかた	【法】【コミュ】【保・医】
陸前高田市青年団体協議会	【コミュ】
いわて生活協同組合	【コミュ】【炊】【他】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【コミュ】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【ボラ】【収】
岩手県司法書士会	【法】
神戸大学 東北ボランティア	【コミュ】
バスプロジェクト	【コミュ】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金	【法】
法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
日本ユニセフ協会/ 岩手県ユニセフ協会	【子全般】
もっちいと森の仲間たち	【物】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

＜高田町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【キャバ】
遠野まごころネット	【子全般】
パクト	【子全般】【物】
まあむたかた	【法】【キャバ】
陸前高田市	【保・医】【子育て】
保健医療福祉未来図会議	【保・医】
いわて生活協同組合	【コミュ】【炊】【他】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【コミュ】
岩手県司法書士会	【ボラ】【収】
シャンティ国際ボランティア会	【法】
東北大学	【コミュ】【生活】
陸前高田応援サークルぽかぽか	【子全般】
神戸大学 東北ボランティア	【コミュ】
バスプロジェクト	【コミュ】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【子全般】【キャバ】
岩手大学	【教】
国境なき子どもたち	【子全般】【コミュ】
いわて三陸ひまわり基金	【生活】【情】
法律事務所	【子全般】
陸前高田市社会福祉協議会	【法】
日本ユニセフ協会/ 岩手県ユニセフ協会	【コミュ】【情】【他】
前田建設工業株式会社	【子全般】【子育て】
	【教】
	【コミュ】

＜広田町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
パクト	【子全般】【物】
まあむたかた	【法】【キャバ】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【ボラ】【窓・取】
岩手県司法書士会	【法】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
神戸大学 東北ボランティア	【コミュ】
バスプロジェクト	【子全般】
岩手大学	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金	【法】
法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
NICE	【産業】
健康生活ネットおおふなと	【教】
もっちいと森の仲間たち	【物】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】
SET	【他】【子全般】【コミュ】
教育支援チーム「まつ」	【コミュ】【教】
高田大隅つどの丘商店街	【他】
子どもグリーフサポートステーション	【子全般】
もっちいと森の仲間たち	【他】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】
りくカフェ	【保・医】【コミュ】
	【子育て】【場】



2015年度 陸前高田市支援概況マッピング 支援団体分布図

＜住田町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【キャバ】【ボラ】
まあむたかた	【法】
岩手県司法書士会	【法】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】

＜市内全域＞活動団体	活動分野
難民支援協会	【他】
パクト	【ボラ】【他】
桜ライン311	【他】
陸前高田まちづくり協働センター	【窓・取】【情】【場】
陸前高田市保健医療福祉未来図会議	【保・医】
岩大E_code	【情】
6大学支援ネットワーク	【他】
GreenFields	【他】
大船渡地区被災者相談支援センター	【窓・取】【情】
陸前高田市社会福祉協議会	【ボラ】【情】
NICE	【子全般】

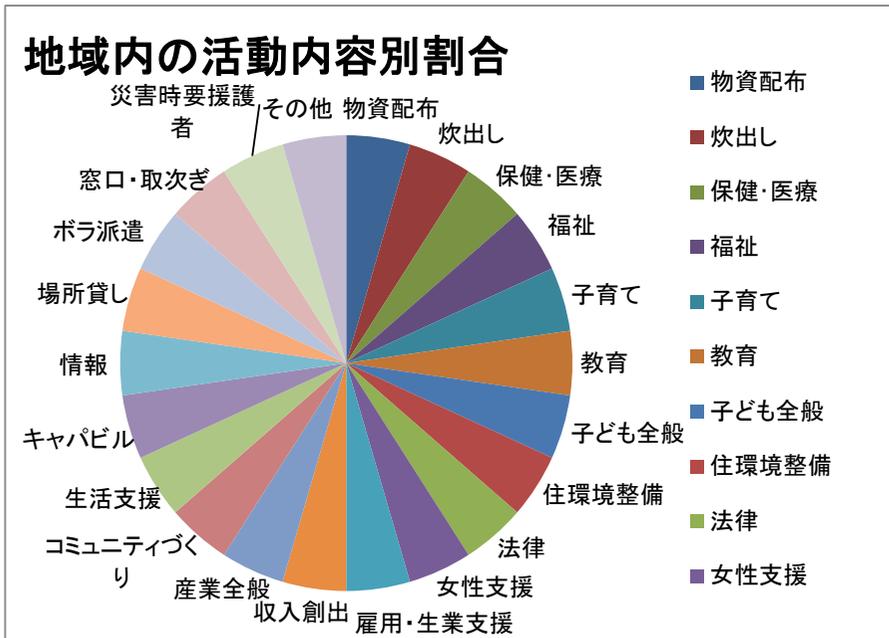
活動履歴・アンケート提出団体一覧

岩手県司法書士会
 いわて三陸ひまわり基金法律事務所
 いわて生活協同組合（いわて生協）
 岩手大学
 特定非営利活動法人 いわて連携復興センター
 NECネットエスアイ株式会社（ひまわりハウス）
 大船渡地区被災者相談支援センター（岩手県大船渡地域復興センター）
 株式会社 リコー
 岩大E_code
 教育支援チーム「まつ」
 特定非営利活動法人 Green Fields（旧：希望の花いわて3.11プロジェクト）
 健康生活ネットおおふなど
 神戸大学 東北ボランティアパスプロジェクト
 認定特定非営利活動法人 国境なき子どもたち（KnK）
 特定非営利活動法人 子どもグリーンサポートステーション
 特定非営利活動法人 再生の里ヤルキタウン
 認定特定非営利活動法人 桜ライン311
 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム
 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会
 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 一般社団法人 SAVE TAKATA
 特定非営利活動法人 SET
 高田大隅つどいの丘商店街
 東北大学 陸前高田応援サークルぽかぽか
 特定非営利活動法人 遠野まごころネット
 認定特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク
 特定非営利活動法人 NICE
 認定特定非営利活動法人 難民支援協会
 にじのライブラリー
 公益財団法人 日本ユニセフ協会/岩手県ユニセフ協会
 特定非営利活動法人 パクト
 特定非営利活動法人 ハマトラ 横浜フットボールネットワーク
 一般社団法人 東日本未来都市研究会
 特定非営利活動法人 まあむたかた
 前田建設工業株式会社
 まるごとりくぜんたかた協議会（現：一般社団法人 マルゴト陸前高田）
 もっちいと森の仲間たち
 特定非営利活動法人 夢ネット大船渡
 ReVA復興ボランティアチーム・上尾
 特定非営利活動法人 りくカフェ
 社会福祉法人 陸前高田市社会福祉協議会
 陸前高田市青年団体協議会
 陸前高田市復興支援連絡会
 陸前高田市保健医療福祉未来図会議（通称：未来図会議）
 陸前高田未来商店街
 特定非営利活動法人 陸前たがだ八起プロジェクト
 陸前高田まちづくり協働センター
 6大学支援ネットワーク：陸前高田地域再生支援研究プロジェクト

- ・物資配布 【物】
- ・炊出し 【炊】
- ・保健・医療 【保・医】
- ・福祉 【福】
- ・子育て 【子育て】
- ・教育 【教】
- ・子ども全般 【子全般】
- ・住環境整備 【住】
- ・法律 【法】
- ・女性支援 【女】
- ・雇用・生業支援 【雇・生】
- ・収入創出 【収】
- ・産業全般 【産業】
- ・コミュニティづくり 【コミュ】
- ・生活支援 【生活】
- ・キャパビル（講習・研修） 【キャバ】
- ・情報 【情】
- ・場所貸し 【場】
- ・ボランティア派遣 【ボラ】
- ・窓口・取次 【窓・取】
- ・災害時要援護者支援 【要援】
- ・その他 【他】

計48団体

【支援内訳表の解説】 ※次ページ以降の集計シートの見方です



活動内容内訳					
世帯数:	支援回数:		充足率:	世帯数/支援回数	
物資配布	活動回数	割合	収入創出	活動回数	割合
炊出し			産業全般		
保健・医療			コミュニティづくり		
福祉			生活支援		
子育て			キャパビル		
教育			情報		
子ども全般			場所貸し		
住環境整備			ボランティア派遣		
法律			窓口・取次		
女性支援			災害時要援護者支援		
雇用・生業支援			その他		

仮設住宅・場所別支援回数比較

仮設名・場所名 ※	グラフ	活動内容

活動団体	活動分野
団体名	団体が行っている活動

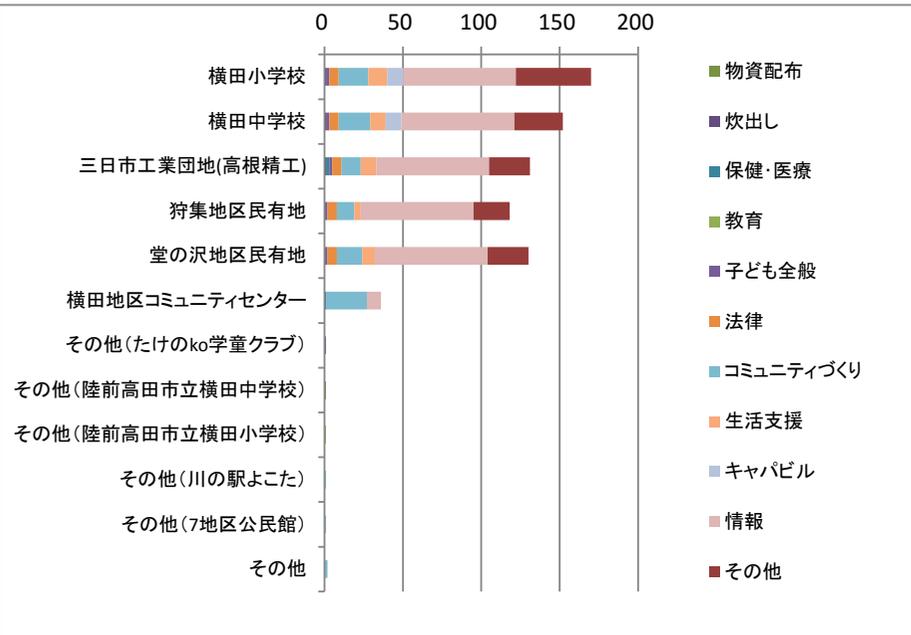
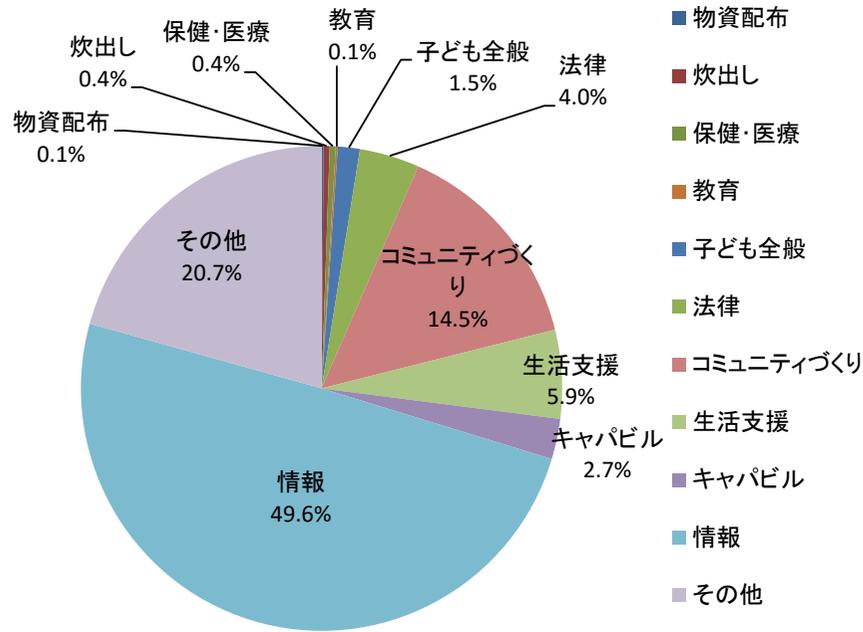
物資配布	【物】	収入創出	【収】
炊出し	【炊】	産業全般	【産業】
保健・医療	【保・医】	コミュニティづくり	【コミュ】
福祉	【福】	生活支援	【生活】
子育て	【子育て】	キャパビル(講習・研修)	【キャパ】
教育	【教】	情報	【情】
子ども全般	【子全般】	場所貸し	【場】
住環境整備	【住】	ボランティア派遣	【ボラ】
法律	【法】	窓口・取次ぎ	【窓・取】
女性支援	【女】	災害時要援護者支援	【要援】
雇用・生業支援	【雇・生】	その他	【他】

補足事項:

※学校の敷地内にある仮設住宅は「〇〇学校」として表記されている。学校自体への場合はその他の欄に「陸前高田市立〇〇学校」と表記。

横田町支援内訳

横田町 世帯数:157 支援回数:744



活動内容内訳

世帯数:	157	支援回数:	744	充足率:	473.9%
------	-----	-------	-----	------	--------

活動内容	回数	割合	活動内容	回数	割合
物資配布	1	0.1%	収入創出	0	0.0%
炊出し	3	0.4%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	3	0.4%	コミュニティづくり	108	14.5%
福祉	0	0.0%	生活支援	44	5.9%
子育て	0	0.0%	キャパビル	20	2.7%
教育	1	0.1%	情報	369	49.6%
子ども全般	11	1.5%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	30	4.0%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	154	20.7%

計 744

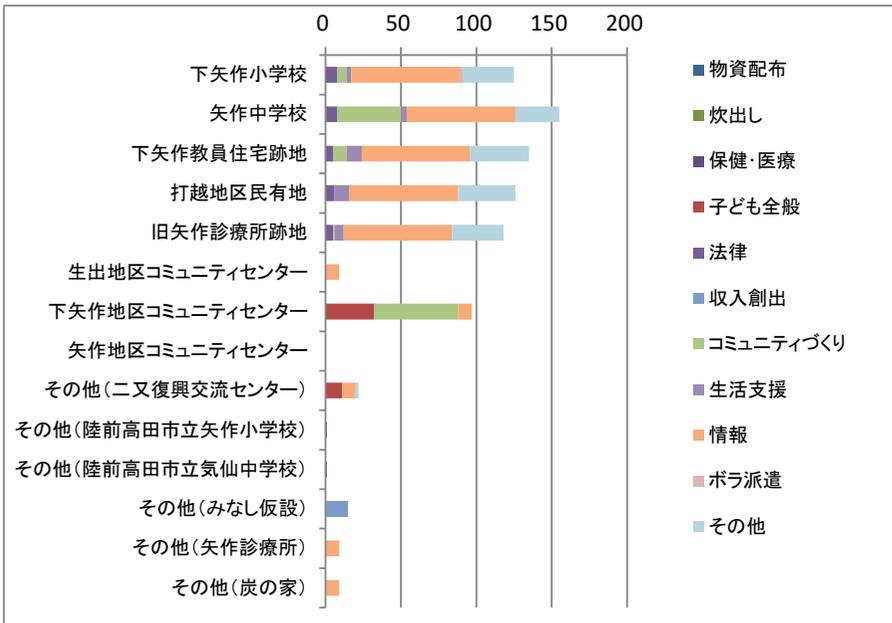
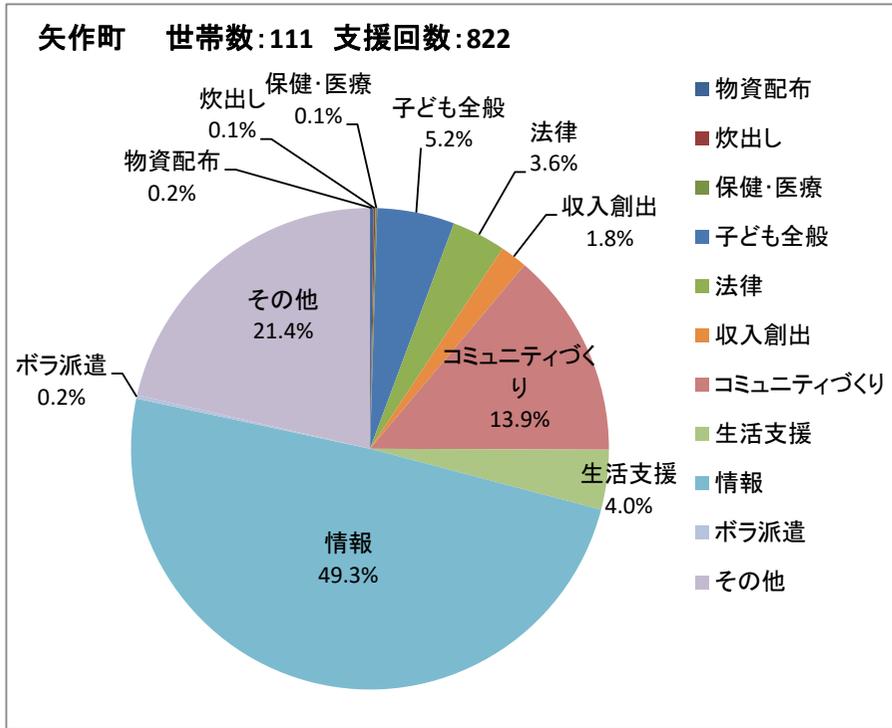
横田町

活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【キャパ】
遠野まごころネット	【子全般】
パクト	【物】
まあむたかた	【法】【コミュ】【保・医】
陸前高田市青年団体協議会	【コミュ】
いわて生活協同組合	【炊】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【コミュ】
岩手県司法書士会	【法】
東北大学 陸前高田応援サークル ぽかぽか	【コミュ】
神戸大学 東北ボランティアバスプロジェクト	【コミュ】
岩手大学	【コミュ】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
ハマトラ横浜フットボールネットワーク	【子全般】【コミュ】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
健康生活ネットおおふなど	【教】【保・医】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

概況・補足事項:

- ・継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【その他】にかかわる活動(仮設見廻り)。
- ・支援量は特定の仮設に偏らず、万遍なく活動されている傾向。

矢作町支援内訳



世帯数:	111	支援回数:	822	充足率:	740.5%
------	-----	-------	-----	------	--------

活動分野	回数	割合	活動分野	回数	割合
物資配布	2	0.2%	収入創出	15	1.8%
炊出し	1	0.1%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	1	0.1%	コミュニティづくり	114	13.9%
福祉	0	0.0%	生活支援	33	4.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	0	0.0%
教育	0	0.0%	情報	405	49.3%
子ども全般	43	5.2%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	2	0.2%
法律	30	3.6%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	176	21.4%

計 822

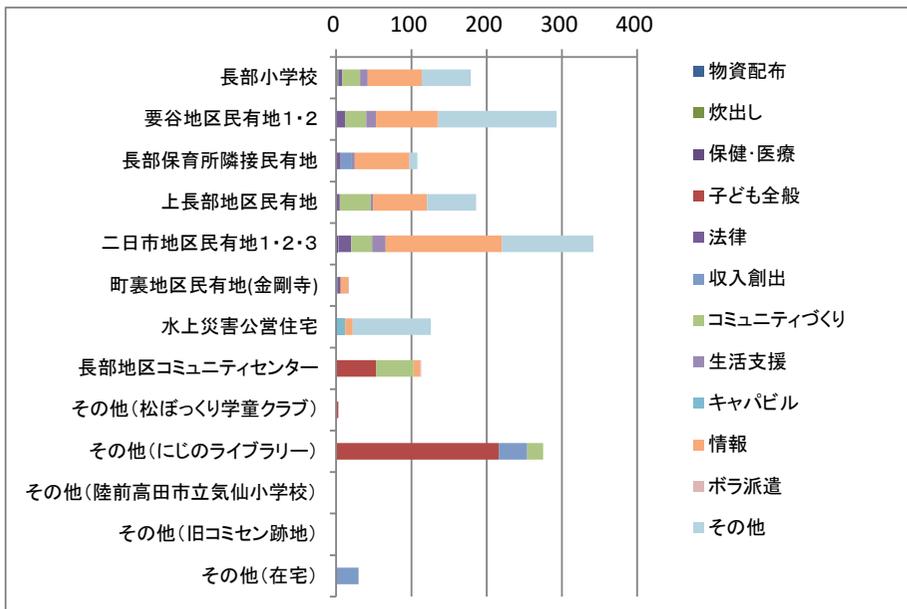
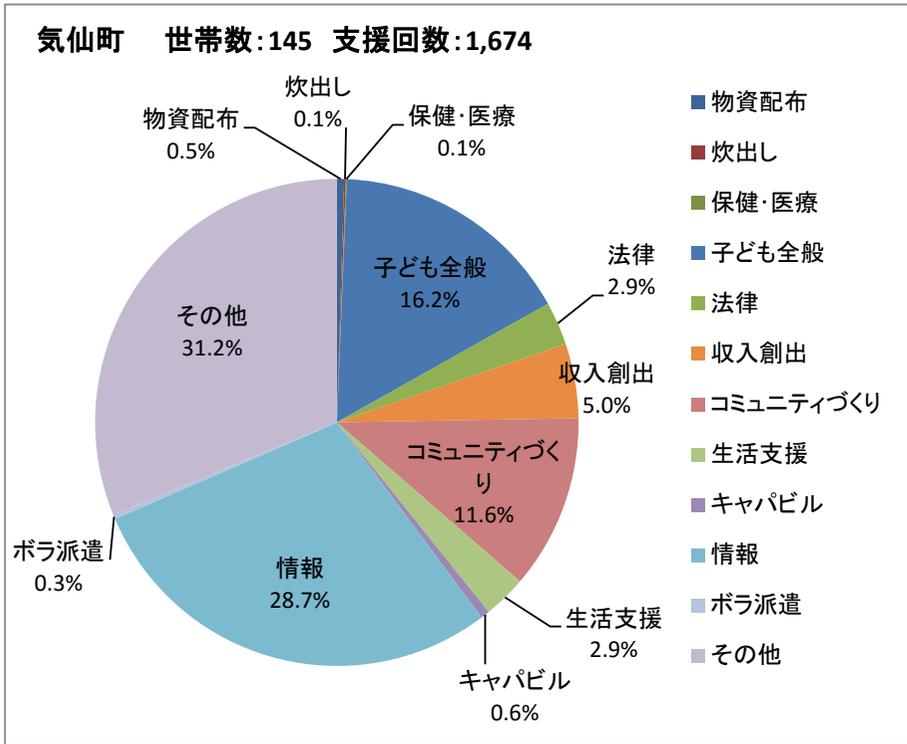
矢作町

活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
パクト	【子全般】【物】
まあむたかた	【法】【保・医】
いわて生活協同組合	【コミュ】【炊】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【収】
岩手県司法書士会	【法】
岩手大学	【子全般】【コミュ】【ボラ】【他】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
NICE	【他】
もっちいと森の仲間たち	【他】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

補足事項:

- ・継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【その他】にかかわる活動(仮設見廻り等)。
- ・矢作中学校仮設では、複数の団体が活動しているため【コミュニティづくり】が多い。
- ・下矢作地区コミュニティセンターでの活動が多い。【子ども全般】(みちくさルーム)や【コミュニティづくり】にかかわる活動等。
- ・みなし仮設住民を対象とした活動は2015年度調査で初出。

気仙町支援内訳



活動内容内訳					
世帯数:	145	支援回数:	1674	充足率:	1154.5%

物資配布	8	0.5%	収入創出	83	5.0%
炊出し	2	0.1%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	1	0.1%	コミュニティづくり	194	11.6%
福祉	0	0.0%	生活支援	48	2.9%
子育て	0	0.0%	キャパビル	10	0.6%
教育	0	0.0%	情報	481	28.7%
子ども全般	272	16.2%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	5	0.3%
法律	48	2.9%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	522	31.2%

計 1674

気仙町

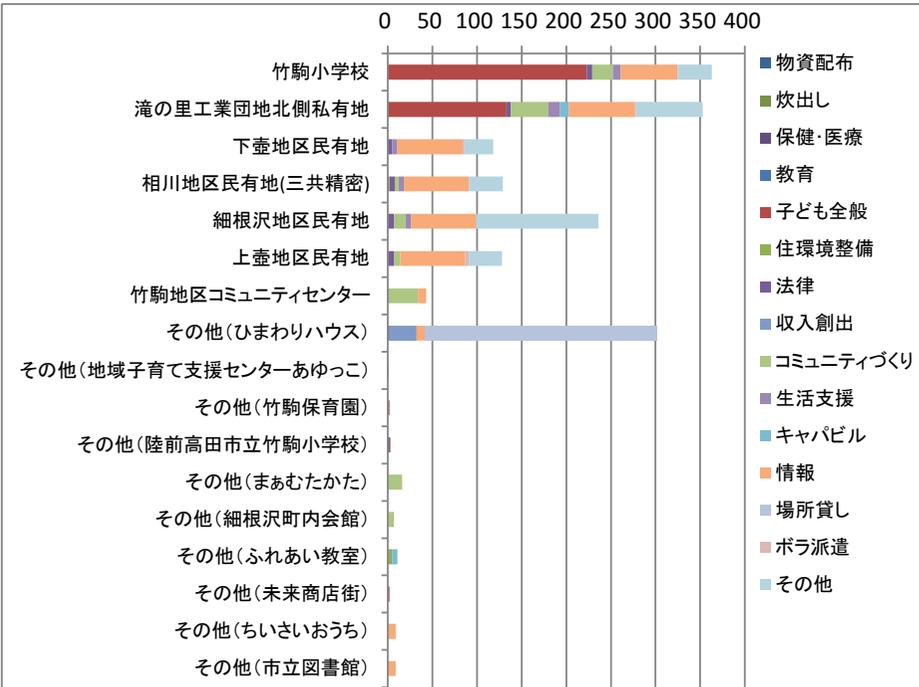
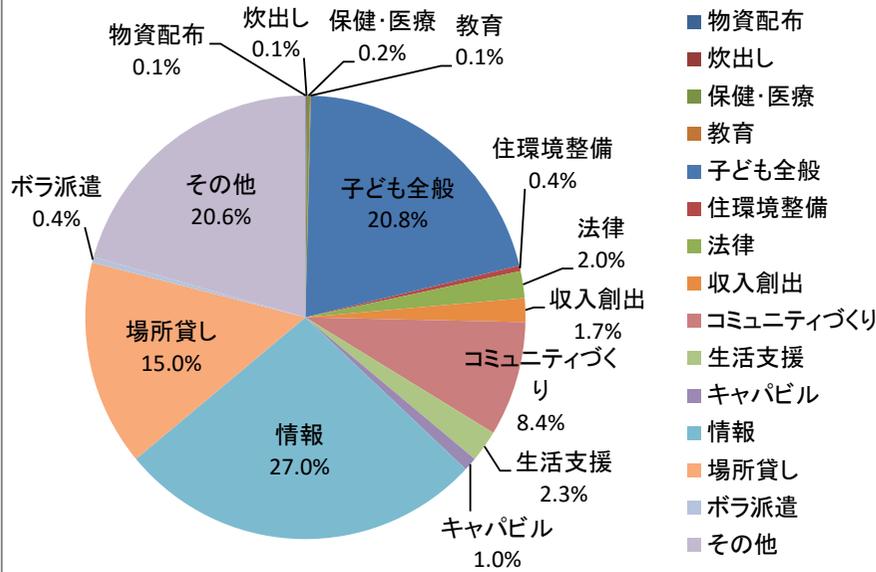
活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【ボラ】【キャバ】
遠野まごころネット	【子全般】
バクト	【子全般】【物】
にじのライブラリー	【子全般】【収】【コミュ】
まあむたかた	【法】【コミュ】【保・医】
陸前高田市青年団体協議会	【コミュ】
いわて生活協同組合	【コミュ】【炊】【他】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【コミュ】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【ボラ】【収】
岩手県司法書士会	【法】
神戸大学 東北ボランティアバスプロジェクト	【コミュ】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
日本ユニセフ協会/岩手県ユニセフ協会	【子全般】
もっちゃん森の仲間たち	【物】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

補足事項:

・【その他】にかかわる活動(仮設見廻りや移動販売)に次いで【情報】の割合が大きくなっている。継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているためである。また、【子ども全般】にかかわる活動も多い(にじのライブラリー、みちくさルーム等)。
 ・水上災害公営住宅が完成。【その他】(移動販売等)にかかわる活動が多い。
 ※調査期間中に、仮設が3ヶ所(要谷地区民有地2・二日市地区民有地3・町裏地区民有地)解体。

竹駒町支援内訳

竹駒町 世帯数:245 支援回数:1,732



活動内容内訳

世帯数:	245	支援回数:	1732	充足率:	706.9%
------	-----	-------	------	------	--------

活動分野	回数	割合	活動分野	回数	割合
物資配布	1	0.1%	収入創出	30	1.7%
炊出し	1	0.1%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	4	0.2%	コミュニティづくり	145	8.4%
福祉	0	0.0%	生活支援	40	2.3%
子育て	0	0.0%	キャパビル	17	1.0%
教育	1	0.1%	情報	467	27.0%
子ども全般	361	20.8%	場所貸し	260	15.0%
住環境整備	7	0.4%	ボランティア派遣	7	0.4%
法律	34	2.0%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	357	20.6%

計 1732

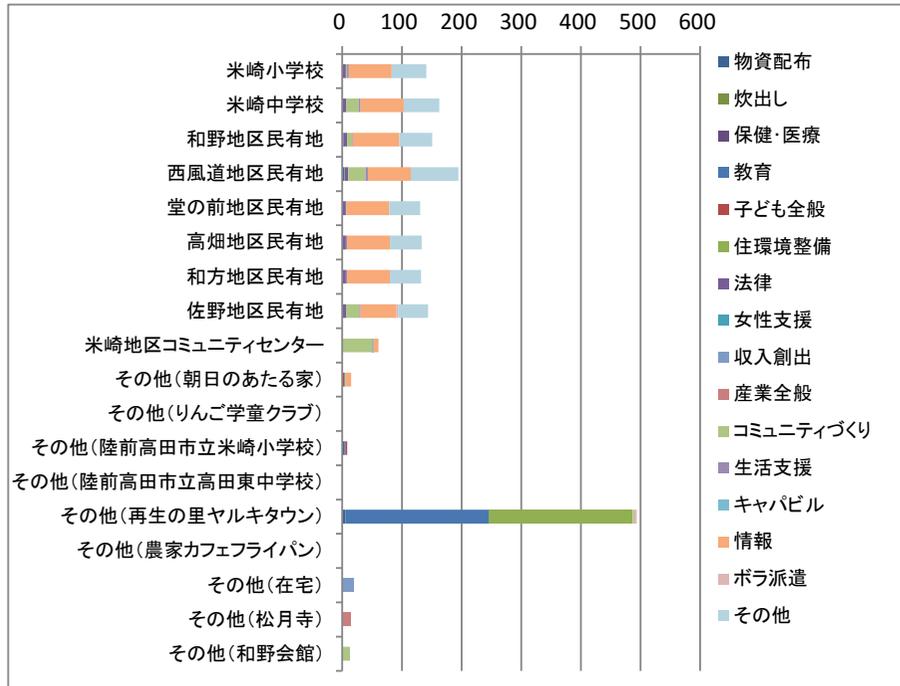
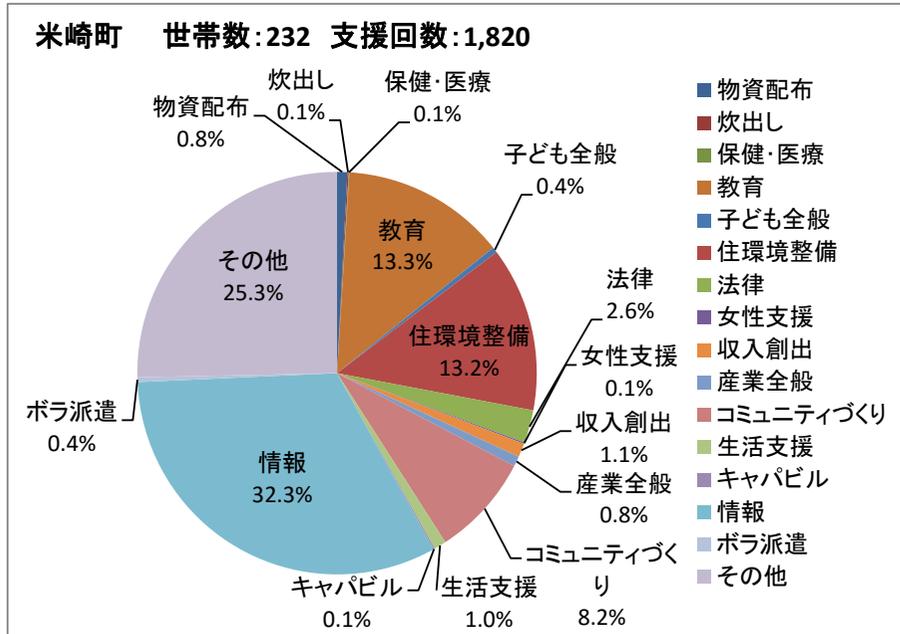
竹駒町

活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【ポラ】【キャバ】
遠野まごころネット	【子全般】
バクト	【物】
まあむたかた	【法】【コミュ】【キャバ】【保・医】
いわて生活協同組合	【コミュ】【炊】【他】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【住】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【コミュ】【ポラ】
岩手県司法書士会	【法】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
東北大学 陸前高田応援サークル ぽかぽか	【コミュ】【生活】
神戸大学 東北ボランティアバスプロジェクト	【コミュ】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
日本ユニセフ協会/岩手県ユニセフ協会	【キャバ】【子全般】
健康生活ネットおおふなと	【教】
ひまわりハウス	【場】【収】
もっついと森の仲間たち	【住】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

補足事項:

- ・継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【子ども全般】と【その他】にかかわる活動(仮設見廻り、移動販売等)。
- ・竹駒小学校、滝の里工業団地で、特に【子ども全般】で回数が多いのは、「走る！子どもセンター」の活動頻度が高いため。
- ・ひまわりハウスでは【場所貸し】の頻度が高い。

米崎町支援内訳



世帯数:	232	支援回数:	1820	充足率:	784.5%
------	-----	-------	------	------	--------

活動種別	回数	割合	活動種別	回数	割合
物資配布	15	0.8%	収入創出	20	1.1%
炊出し	2	0.1%	産業全般	15	0.8%
保健・医療	1	0.1%	コミュニティづくり	150	8.2%
福祉	0	0.0%	生活支援	18	1.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	2	0.1%
教育	242	13.3%	情報	588	32.3%
子ども全般	8	0.4%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	241	13.2%	ボランティア派遣	7	0.4%
法律	48	2.6%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	2	0.1%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	461	25.3%

計 1820

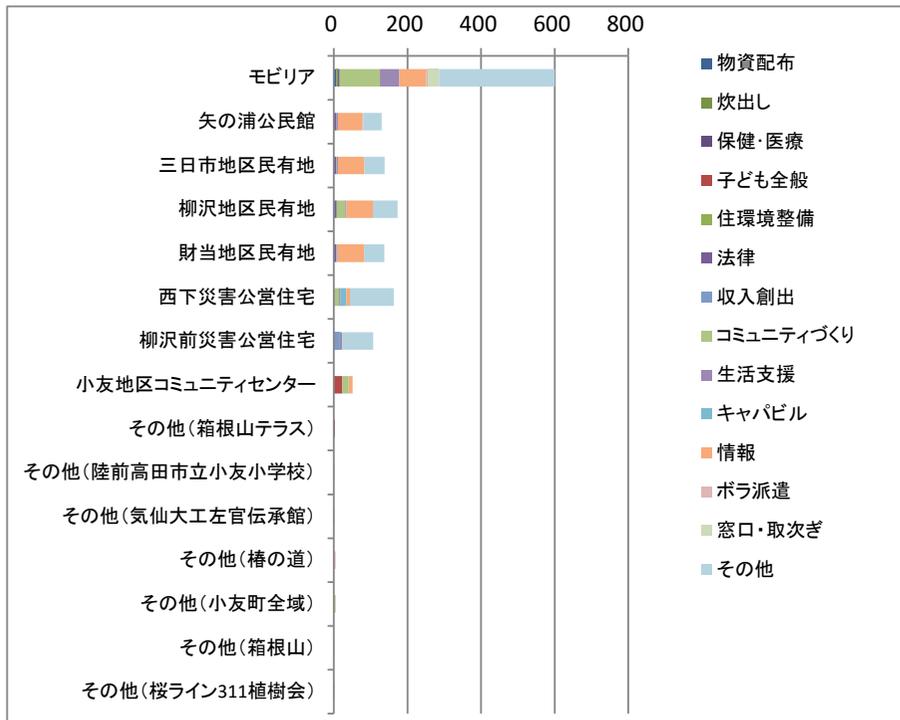
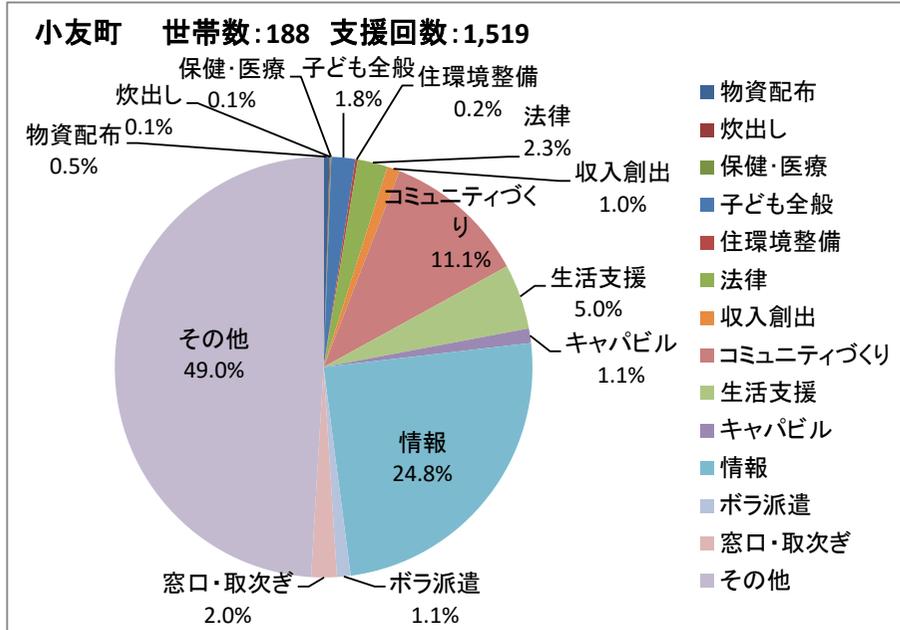
米崎町

活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
遠野まごころネット	【子全般】
パクト	【物】
まあむたかた	【法】【キャパ】【保・医】【女】
再生の里ヤルキタウン	【コミュ】【教】【住】
桜ライン311	【他】
陸前高田市青年団体協議会	【コミュ】
いわて生活協同組合	【コミュ】【炊】【ボラ】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【生活】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【ボラ】【収】
岩手県司法書士会	【法】
東北大学 陸前高田応援サークル ぼかぼか	【コミュ】【生活】
神戸大学 東北ボランティアバスプロジェクト	【コミュ】
岩手大学	【コミュ】【情】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
NICE	【子全般】【産業】
教育支援チーム「まつ」	【物】
健康生活ネットおおふなと	【教】
子どもグリーンサポートステーション	【子全般】
もっちいと森の仲間たち	【物】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

補足事項:

・継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【その他】にかかわる活動(仮設見廻り、移動販売等)。
 ・再生の里ヤルキタウンを拠点に通年で活動する団体があるため、他地区に比べ【住環境整備】【教育】の割合が大きくなっている。

小友町支援内訳



活動内容内訳					
世帯数:	188	支援回数:	1519	充足率:	808.0%

活動分野	回数	割合	活動分野	回数	割合
物資配布	7	0.5%	収入創出	15	1.0%
炊出し	1	0.1%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	1	0.1%	コミュニティづくり	169	11.1%
福祉	0	0.0%	生活支援	76	5.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	17	1.1%
教育	0	0.0%	情報	376	24.8%
子ども全般	28	1.8%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	3	0.2%	ボランティア派遣	16	1.1%
法律	35	2.3%	窓口・取次	30	2.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	745	49.0%

計 1519

小友町

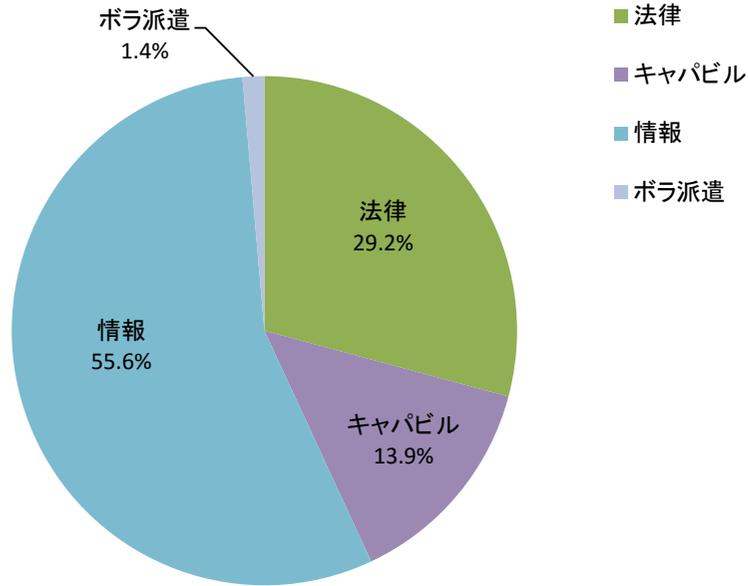
活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【キャパ】
遠野まごころネット	【ボラ】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】【窓・取】【生活】
パクト	【子全般】【物】
まあむたかた	【法】【キャパ】【保・医】
桜ライン311	【他】
いわて生活協同組合	【コミュ】【炊】【ボラ】【他】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【住】【コミュ】【ボラ】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【生活】【ボラ】【コミュ】【収】
岩手県司法書士会	【法】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
東北大学 陸前高田応援サークル ぽかぽか	【子全般】
神戸大学 東北ボランティアバスプロジェクト	【コミュ】
岩手大学	【ボラ】【情】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
前田建設工業株式会社	【ボラ】
もっついと森の仲間たち	【物】
陸前高田市復興支援連絡会	【コミュ】【情】【他】

補足事項:

- ・【その他】(仮設見廻りや移動販売等)に次いで【情報】の割合が大きくなっている。継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているためである。
- ・モビリアを拠点に活動する団体が複数あるため回数が多くなっている。
- ・西下災害公営住宅や柳沢前災害公営住宅では、複数の団体が活動している。

住田町支援内訳

住田町 世帯数:46 支援回数:72



活動内容内訳

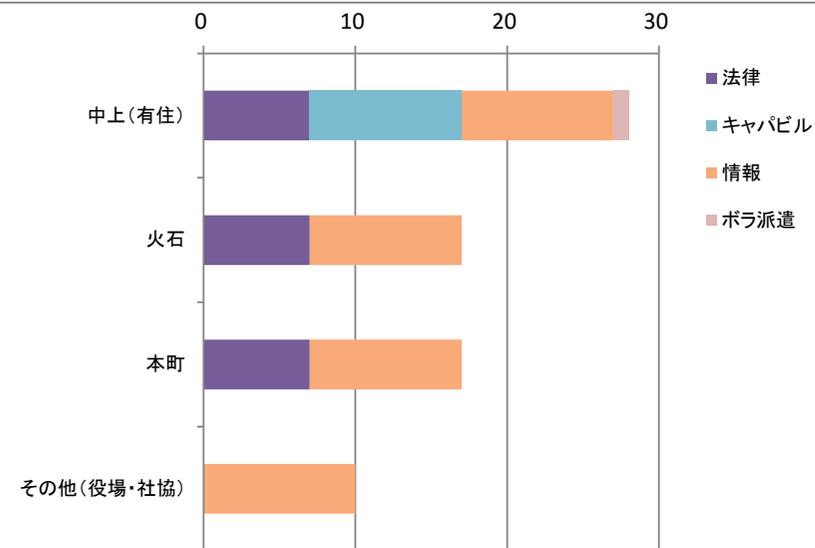
世帯数:	46	支援回数:	72	充足率:	156.5%
------	----	-------	----	------	--------

活動内容	回数	割合	活動内容	回数	割合
物資配布	0	0.0%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	0	0.0%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	10	13.9%
教育	0	0.0%	情報	40	55.6%
子ども全般	0	0.0%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	1	1.4%
法律	21	29.2%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	0	0.0%

計 72

住田町

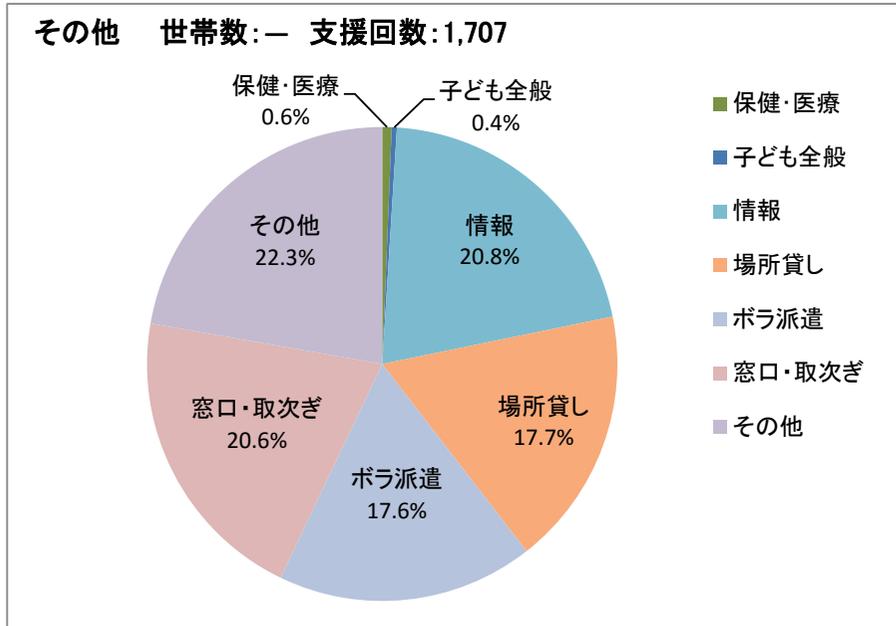
活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【キャパ】【ボラ】
まあむたかた	【法】
岩手県司法書士会	【法】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】



補足事項:

・継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【法律】にかかわる活動。

その他・市内全域対象 支援内訳



活動内容内訳			
世帯数:	支援回数:	1707	充足率:

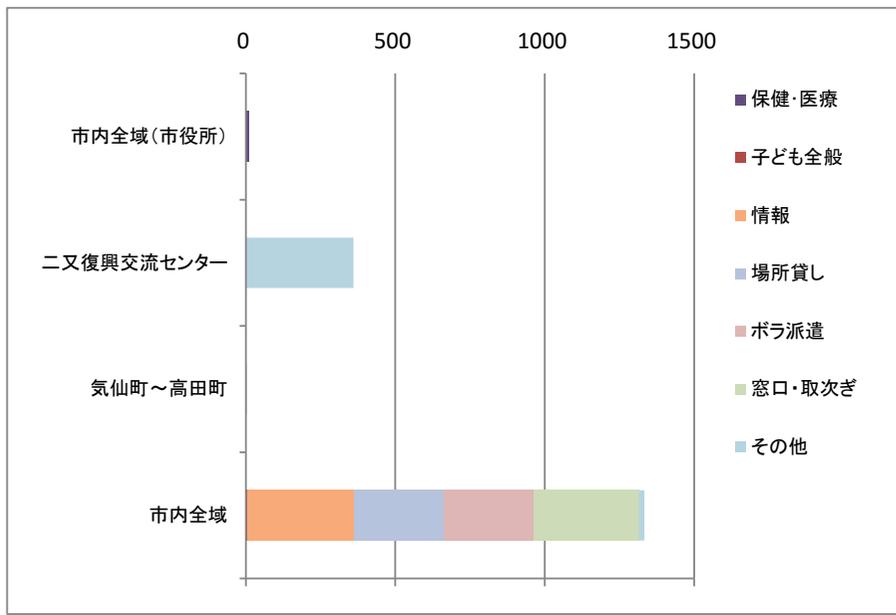
物資配布	0	0.0%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	11	0.6%	コミュニティづくり	0	0.0%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	0	0.0%
教育	0	0.0%	情報	355	20.8%
子ども全般	6	0.4%	場所貸し	302	17.7%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	301	17.6%
法律	0	0.0%	窓口・取次	352	20.6%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	380	22.3%

計 1707

その他・市内全域対象

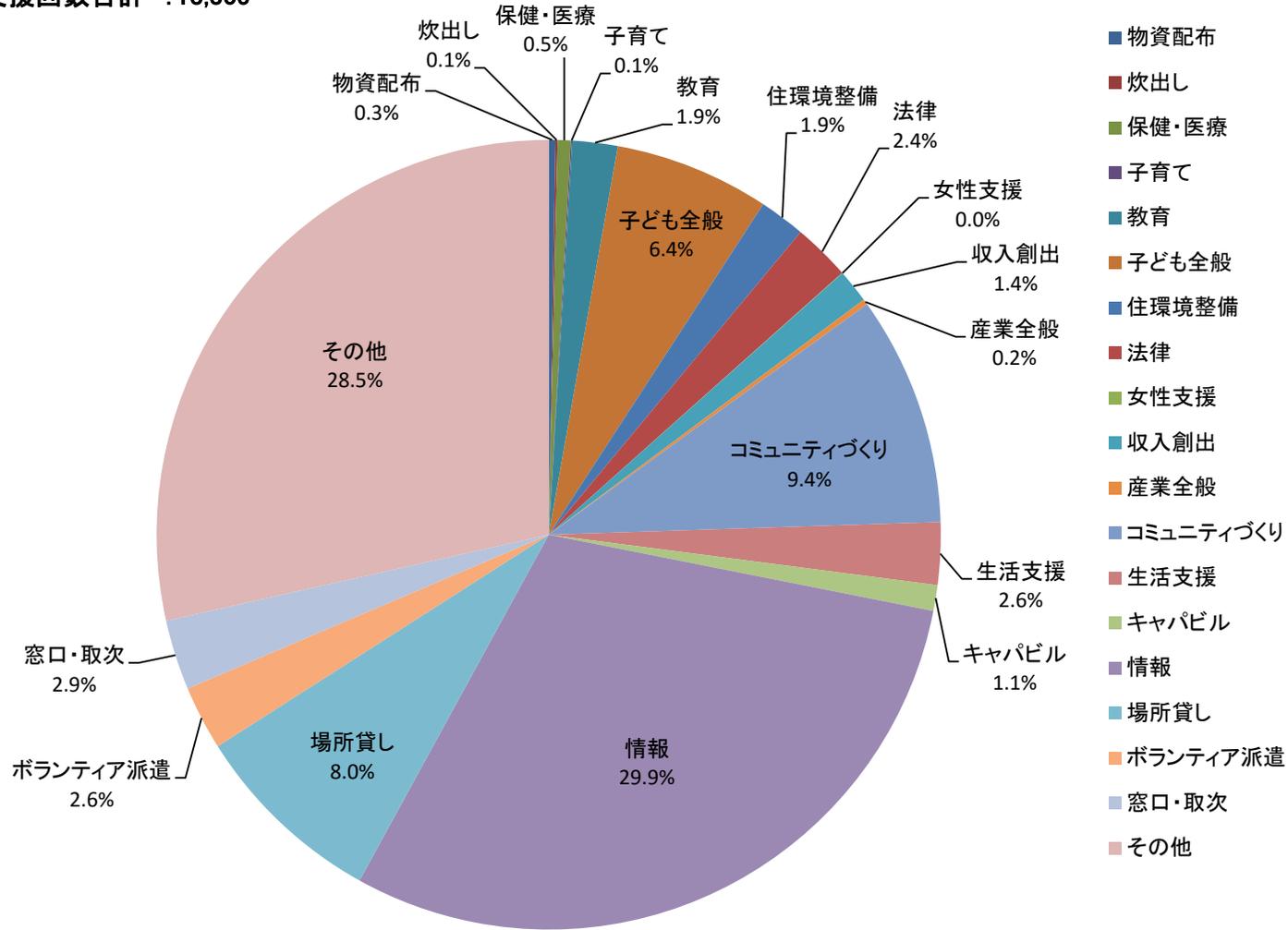
活動団体	活動分野
難民支援協会	【他】
バクト	【ボラ】【他】
桜ライン311	【他】
陸前高田まちづくり協働センター	【窓・取】【情】【場】
陸前高田市保健医療福祉未来図会議	【保・医】
岩大E_code	【情】
6大学支援ネットワーク	【他】
GreenFields	【他】
大船渡地区被災者相談支援センター	【窓・取】【情】
陸前高田市社会福祉協議会	【ボラ】【情】
NICE	【子全般】

補足事項:
 ・【情報】【場所貸し】【ボランティア派遣】【窓口・取次ぎ】【その他】(施設の窓口業務等)に関しては、通年開設の支援拠点機能を有しているものや、通年かけて実施する事業内容の支援があるため、支援量が多くなっている。



合計

支援回数合計 : 13,305



活動内容内訳

支援回数: 13305

活動内容	回数	割合 (%)
物資配布	37	0.3%
炊出し	11	0.1%
保健・医療	72	0.5%
福祉	0	0.0%
子育て	7	0.1%
教育	249	1.9%
子ども全般	850	6.4%
住環境整備	251	1.9%
法律	314	2.4%
女性支援	2	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%
収入創出	183	1.4%
産業全般	30	0.2%
コミュニティづくり	1252	9.4%
生活支援	340	2.6%
キャパビル	140	1.1%
情報	3981	29.9%
場所貸し	1062	8.0%
ボランティア派遣	350	2.6%
窓口・取次	382	2.9%
災害時要援護者支援	0	0.0%
その他	3792	28.5%

計 13305

支援概況アンケート集計結果

【概要】

アンケート実施期間：2016年2～3月

対象期間：2015年2月～2016年1月

内容：対象期間内における支援活動の内容・変遷等とその背景・経緯について

<参考>アンケート質問事項

1. 対象期間（2015年2月～2016年1月）における、陸前高田での支援活動についてお尋ねします。
 - 1-1. 対象期間の主たる活動について、内容を教えてください。（自由記述）
 - 1-2. その活動を開始したきっかけを教えてください。
 - ・要因（選択式）：現地における対象者からの声／代表者・コアメンバーからの発案／そのほかの要因
 - ・概要（自由記述）
2. 対象期間（2015年2月～2016年1月）における、貴団体の陸前高田での支援活動の継続状況を選択してください。（選択式）

まだ継続している活動がある／すべての活動が途中で終了している
3. 対象期間（2015年2月～2016年1月）に行なわれていた活動のうち、2016年2月現在も継続しているものについてお教えてください。（自由記述）
 - ・変化の有無
 - ・生じた時期
 - ・生じた変化
 - ・背景・理由
4. 活動のうち、対象期間（2015年2月～2016年1月）内で終了したものについてお尋ねします。
 - 4-1. 終了の形態（選択式）

対象期間内で終了した事業はない／陸前高田で展開してきた活動の一部を終了（継続している活動も有）／陸前高田での事業をすべて終了し撤退（団体としての活動は継続）／団体そのものを解散／その他
 - 4-2. 終了した活動の内容（自由記述）
 - 4-3. 対象期間（2015年2月～2016年1月）内に、支援活動を終了した理由は何ですか？（差支えの無い範囲でお知らせください。）（自由記述）
 - 4-4. 活動を終了する際の、引き継ぎ有無と、その背景を差支えの無い範囲でお知らせください。（自由記述）
 - ・引継ぎ有無
 - ・背景
5. 対象期間（2015年2月～2016年1月）で、活動が地域にもたらした変化を教えてください。（自由記述）
 - ・生じた時期
 - ・生じた変化
 - ・内容の詳細
6. 対象期間（2015年2月～2016年1月）における、他団体や行政・企業との連携事業についてお尋ねします。各連携事業について、取組まれた時期・内容・理由と、成果・反省点について、差し支えのない範囲で教えてください。
 - ・事業名
 - ・事業の時期
 - ・実施頻度
 - ・連携相手
 - ・自団体の役割
 - ・連携先の役割
 - ・連携に至った理由・背景
 - ・事業実施の成果・反省点

参考：カテゴリー一覧

【物】	物資配布	【子全般】	子ども全般	【産業】	産業全般	【ボラ】	ボランティア派遣
【炊】	炊出し	【住】	住環境整備	【コミュ】	コミュニティづくり	【窓・取】	窓口・取次
【保・医】	保健・医療	【法】	法律	【生活】	生活支援	【要援】	災害時要援護者支援
【福】	福祉	【女】	女性支援	【キャパ】	キャパビル（講習・研修）	【他】	その他
【子育て】	子育て	【雇・生】	雇用・生業支援	【情】	情報		
【教】	教育	【収】	収入創出	【場】	場所貸し		

【結果・概況】

回答数：48 団体

1. 支援活動内容

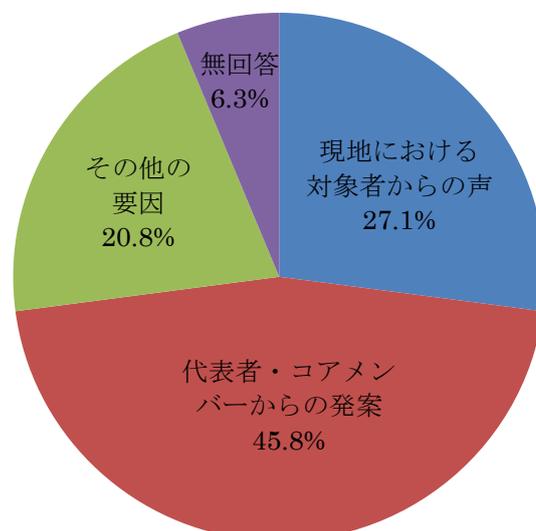
1-1. 対象期間内に実施された活動内容一覧

生活支援	<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 炊き出し ・ 物資配布 	<p>【仮設・みなし仮設を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 足湯活動 ・ 自立支援活動 ・ 買物支援 ・ 見守り活動、巡回 ・ 住環境整備（草取り、高所清掃） ・ 引っ越し作業支援
保健 医療 福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防 ・ 地区と協働した地域福祉活動の推進 ・ 在宅福祉活動の推進（介護保険・障がい者ヘルパー・ケアマネ事業所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康づくりやコミュニティづくりに関するハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを考える場の設定
教育 子ども	<p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習イベントの企画 ・ 高校生へのキャリア教育 <p>【学校支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内小中学校への物資配布 ・ 水産高校への奨学金支援 ・ 学童訪問 <p>【支援事業・ケア活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大切な人をなくした子どもとその保護者のためのグリーフプログラム ・ 子ども支援に関わる方への研修会 ・ 食育 	<p>【場の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの遊び場、居場所作り ・ 移動型子どもセンターによる子どもの居場所作り・見守り支援 ・ 学習スペース、フリースペースの運営、解放 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の運営 ・ 学童指導員の研修、記録集配布 ・ 「子どもまちづくりクラブ」の定期実施と地域への報告会の開催 ・ 公共交通機関を利用した遠足の実施
なりわい (雇用・収入創出・産業支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各団体の商品販売 ・ 簡易宿泊施設運営管理 ・ 就農体験受入れ ・ ITによる地域貢献活動 ・ 起業家支援 ・ 交流人口拡大（修学旅行や企業研修の誘致） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者の集う拠点づくり ・ 物産展 ・ 手仕事支援 ・ 農業・漁業作業の手伝い ・ パソコン教室
コミュニティづくり (サロン・イベント運営・地域コミュニティアプローチ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント企画、開催 ・ サロン・イベントの運営支援（お祭り等地域行事含む） ・ 自治会・コミュニティサポート ・ 住民交流の機会創出（お茶会、サロン活動） ・ 他地域との交流機会創出（ツアー、研修） ・ いきがいづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント開催（小学生対象のフットサル交流会、地域を巻き込んでの食事会） ・ コミュニティスペースの運営 ・ 花壇や畑の手伝い ・ 畑整備/農園づくり ・ 公営住宅のコミュニティサポート

法律	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会・相談会（住宅・生活再建） ・ 法律相談、弁護士業務全般、講演会・勉強会・説明会講師等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援センターの運営・窓口での相談対応・専門家相談（弁護士、司法書士等）の実施
女性支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性のエンパワーメント 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域情報の収集/発信 ・ Web/アプリ制作 ・ 情報誌（復興関連/被災者向け）の発行 ・ 定期発行の広報紙作成、発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報誌（フリーペーパー/観光寄り）の企画・刊行・配布 ・ 外国人訪問環境整備
ボランティア（派遣・コーディネート）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア派遣（大学生・企業） ・ ボランティア受け入れ、窓口業務 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア・支援団体コーディネート
その他	<p>【キャパビル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元団体・ネットワークの組織基盤整備、フォローアップ ・ 研修・講習の開催 <p>【防災・減災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災による津波被害の風化防止、継承の為に桜並木の植樹活動 ・ 減災への普及啓発活動 ・ 植樹会を通じた小学生への防災/減災教育 <p>【中間支援・後方支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内における中間支援（相談窓口の開設・情報発信） ・ 県内・管内での中間支援業務 ・ 資金助成 ・ 関係団体の事業への物資（印刷物提供）・資金面での支援 ・ 事業相談対応 	<p>【連携促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援団体間のネットワーク強化 ・ 連携調整 <p>【調査活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮設住宅での調査活動 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修交流会の開催 ・ 視察ツアーの受入れ ・ 住民主体のワークショップの開催等 ・ 学校/企業/団体等の研修・活動のコーディネート

1-2 活動を開始した要因

現地における対象者からの声	27.1% (13 団体)
代表者・コアメンバーからの発案	45.8% (22 団体)
その他の要因	20.8% (10 団体)
無回答	6.3% (3 団体)



○現地における対象者からの声

復興ニュースの発行配布、手芸講習の開催など

被災地の NPO 法人として、被災者救援の必要性を痛感し、気仙市民復興連絡会を組織。同連絡会の活動と合わせて独自事業として、仮設住宅のパトロールを実施、仮設住宅の不具合や被災者の要望を聞いた。その要望に対応した結果、復興ニュースの発行配布、手芸材料のお届けや手芸講習を開始。

視察・研修交流会、ボランティア派遣

現地の現状・実情を知る事により、今後の支援のあり方や、各地の防災・減災・地域交流に繋げる。現地のニーズに合わせたボランティアコーディネート。

モビリア仮設住宅を中心としたコミュニティ自立支援

震災直後、避難所ではなかった県立オートキャンプ場モビリアを、避難所として運営した。その後、陸前高田市内で最大の仮設住宅が設置された事により、仮設住宅支援から、地域のコミュニティ支援へと活動を広げて現在に至る。

子ども支援事業、ボランティア受入れ事業、簡易宿泊所運営事業

震災前からの課題であった高齢化・過疎化・若者の人口流失が、震災の影響によりさらに加速している。地域課題の解決は簡単ではないが、各事業ごとに地域住民とともに考え、支えとなるよう活動を継続している。

コミュニティづくり、買い物支援、生業づくり

ふれあいサロンは、孤立防止や気分転換・生きがいづくりを目的に。バスボランティアは現地復興のため。文化企画も実施。買い物支援は、買物不便な地域への移動販売車の運行や、個人宅配の手数料割引。

被災したメーカーの商品取扱い、県外生協への紹介、仮設住宅のグループ等の手作り作品の販売。

地元 NPO 法人と連携したバスツアーサポート

どこでもいいから出かけたが、車がないので出かけられない・仮設から災害復興公営住宅や自力再建で引っ越しをした先での近所の方との交流がない・孤立防止などの、現地対象者の声を拾った地元の NPO 法人の提案に賛同し、バスツアーのサポート協力として定期的を実施。

45 号線沿いの花壇「フラワーロード」作り

継続支援してきた「フラワーロード」の活動を地元のメンバーが中心に出来るようになってきたが、足りない資材や作業と一緒に続けたいという内外からの要望があったため。

子どもに学習スペース・居場所を提供する、バスを改造した「走る! KnK 子どもセンター」を運行。地域主体となる子どもの居場所作りのきっかけとなるよう、地域交流会の開催。陸前高田市内の体を動かせる施設への公共交通機関を使った遠足の実施。

震災後、「仮設住宅での生活で子どもたちがのびのびと過ごすことが難しくなった」「市内の公園や学校の校庭に仮設住宅が建設され、また道路の交通量も増えた事から市内で安全に遊べる場所が少なくなった」、また、「こういった状況で放課後や休日の子どもたちの様子が心配だ」という声を陸前高田市教育委員会を通し確認したことがきっかけ。改造バスを使用した移動型子どもセンターを 2011 年 12 月から開始し、小中学生が友人やスタッフと共に思い思いに過ごせるよう「居場所」を提供している。また、地域主体となった子どもの見守り居場所作りが今後必要となっていくことから、そのきっかけとなるよう、地域交流会を開催。子どもの遊び場が依然として少ないという現状から、今ある施設や移動手段の発見や再確認をすることを目的とし、公共交通機関を利用した子どもが体を動かせる安全な施設への遠足を開催。

学童訪問、リンゴ畑・気仙茶畑の作業手伝い、牡蠣養殖作業手伝い、子ども支援など

震災後ニーズが刻々と変わっていくことに伴い、ボランティア活動の内容も変化。繋がりのある方のニーズにお答えしている状況。

被災した子どもたちの長期的な見守り、学校の支援、教師・子どもの居場所の運営、不登校の子どものためのフリースペースの提供

東日本大震災により地震と津波で甚大な被害を受けた陸前高田市では、地域・学校・家庭という、子どもを支える基盤全てが弱体化した。そこで、同市の被災学校に勤務経験のある教職退職者が中心となって、被災学校や教師を支援し、子どもの教育環境の復旧・整備を支援すると共に、教師と共に陸前高田市の教育課題を考え合い、被災した子どもたちを長期的に見守り支援することとなった。

仮設商店街の運営、地域コミュニティと連携した企画の実施

子どもからお年寄りまで、一緒に楽しめる場所づくりをしていきたいという事業者の声から、商店街周辺住民の皆様や中学校・高等学校と連携した企画を実施。

自治会のサポートや住民のコミュニティの強化、心のケア、支援団体との連携し地域全体のコミュニティ再生・新生への取り組み

前身の団体が2015年3月を持って活動を終了するにあたり、今後の仮設住宅へのサポートが希薄になることに、住民や自治会長からも不安の声が挙がった。陸前高田市において仮設住宅の撤去が、まだ明確にされないまま長期化している現状を見ると、仮設へのサポートはまだ必要であるという結論に至った。また、仮設の集約や、自主再建で仮設が減っていったとしても、弱体化した自治会やコミュニティの崩壊などが課題となっていくため、コミュニティ支援はますます重要となってくると思われ、業務を受け継ぐ形となった。

外部の若者との交流による町の担い手創出、地元高校生のキャリア教育&Problem Based Learning（問題解決型授業）、パソコン教室

（代表者、コアメンバーからの発案でもある）

○代表者・コアメンバーからの発案

2013年6月までに実施した事業のフォローアップ（特に、地元NPO・ネットワーク等への支援）

2011年3月以降に陸前高田を中心に活動してきた7事業のうち、特に支援団体調整と現地NPOの基盤整備について、数団体・ネットワークとの会合、直接対話を通じて、関連事業のフォローアップを実施。（助成が終了する2015年8月まで実施）

①農業：農業の担い手創出のための就農体験の提供

②ICT事業：地域情報の発信とWeb・アプリ制作

③若者事業：大学生による歴史・文化・情報の収集と発信

地域のニーズと持っている資源を加味し、2011年に開始した15程度のプロジェクトを取捨選択・統合した結果。

子ども全般（図書館業務）

「子どもたちへくあしたの本」プロジェクトにより運営される、陸前高田市に出来た仮設子ども図書館。今泉天満宮の境内にあり、天神大杉（樹齢700年以上）の脇に建っている。木造平屋の建物は三井物産の協力により建設。

震災の風化防止を目的とした植樹活動、防災/減災への普及啓発活動

※詳細の記述なし

NPOや地縁団体からの設立・組織運営・企画運営等に対する相談窓口の設置、復興支援とまちづくりに取り組むNPO等のネットワーク推進

震災後、陸前高田市にはこれまで少なかったNPOが多く立ち上がったが、ノウハウも経験も資金もない中で運営をしていけばいずれ壁に当たることを危惧。陸前高田市には中間支援拠点がないことを受けて、2012年に拠点となる事業所を設置。以前から、この地区への事業所設置を運営法人では考えていたが、震災がその契機となったことも要因の一つ。

情報誌の企画・刊行・配布、外国人訪問環境整備（VISIT TAKATA プロジェクト）、仮設店舗内ディスプレイ（万歩計プロジェクト）の制作・公開

情報誌については、過去の当団体の経験を踏まえつつ、よりターゲット（県内陸部の学生等）をしばりこんだ冊子をつくろうと企画。VISIT TAKATA プロジェクトについては、陸前高田市の商工観光課からの協力依頼を受ける形で取り組んだ。万歩計プロジェクトについては、木村屋仮設店舗の壁をアレンジすることをお許しいただき、震災後のあゆみを実感でき、市外の人にもそのあゆみを感じられるような掲示物を作成。

震災後継続している仮設住宅地の調査の実施、高田・米崎・広田などにおける支援活動

仮設住宅は、阪神淡路大震災での大きな課題の一つであったため。

高齢者（単身、夫婦）の見守り、コミュニティづくり、手仕事支援、ボランティア・研修派遣

設立時から大槌町や陸前高田市の住民ニーズに応えるため。

法律相談など

避難所から相談活動を行ってきて、それが仮設住宅への巡回相談へと変遷。

図書館活動

※詳細の記述なし

仮設住宅集会所や災害公営住宅集会所でのお茶会・足湯・手芸

「現地の住民の方々のコミュニティ形成のサポートをすることで、仮設住宅、災害復興公営住宅といった新たな住居で、孤独感や閉塞感を感じないようにすることが求められているのではないだろうか。」というメンバー・教員からの意見。

学生のボランティア活動

初期は、学生の有志による活動でスタートしたが、ボランティア班の発足と同時に学生とともにボランティア活動を開始。

横田小体育館での横田の子どもたちとフットサル交流会、横小仮設周辺または仮設集会所で横田の方々と昼食会

津波による被災地域でのニーズが減少し、ソフト面での支援のあり方を探る中で、校庭に仮設住宅が建設されて遊び場を失った子どもたちや、同じ地区に居住していながら通っている学校が違うために、日頃一緒に遊ばない子どもたちが、思い切り身体を動かして仲良くなるきっかけになればいいな、という思いに至ったことから。

当社社員とその家族による企業ボランティア

震災直後に、会社として被災地を継続的に支援する必要があると判断し、取り組み始めた。

それ以来、10人前後での団体でのボランティア活動を継続的に実施している。

絵画展（年2回）の開催、花を使った癒しの体験など

大震災を経験し、そこで大切なものとして声高に言われてきたことは「絆」だったのではないのでしょうか。地域包括ケアの中でも、地域コミュニティがしっかりしているところは、コミュニティ内の精神状態・健康状態も良いと言われているので、子ども達と地域住民を繋げることで、支え合えるコミュニティをつくりたいし、花や芸術など、美を使ってより良いコミュニティづくりをやっていくことが、震災復興の絆づくりになるのでは、という思いから開始。

コワーキングスペース提供、起業家支援

東日本大震災をきっかけとした企業としての支援活動。

大切な人をなくした子どもとその保護者のためのグリーフプログラム（ワンデイ交流会）の開催

震災前から仙台において、大切な人をなくした子どもとその保護者のためのグリーフプログラムを実施しており、被災地での活動の展開や全国でその輪をつくるため。

畑や花壇作りの手伝い、支援物資の配布

仮設住宅や災害復興公営住宅でのコミュニケーション構築に役立つので継続してきた。当初はこちらから出向いて始めたが、最近は請われていくことが多い。

陸前高田市の交流人口拡大事業での修学旅行・企業研修などの誘致、活動などを実施

2013年にコアメンバーが陸前高田市長と打ち合わせを行った。「今後の陸前高田市を創っていく上で、外部の力が必要。災害ボランティアが無くなっても、陸前高田を訪れる仕組みを作ろう」という話から発足。

事業相談対応、助成事業モニタリング

①事業相談対応

相談対応の場合、現地の団体からの依頼に応じて実施。

②助成事業

申請事業自体の内容は現地の団体がニーズにもとづいて設計したものであるが、モニタリング自体は業務上必須となっているから。

介護予防事業、食育、生きがいづくり、コミュニティづくり

脳卒中死亡率ワースト1県になったため、出来る事からと減塩食の提供と指導を始め、高齢者を対象に講座を開始。地元高齢者に野菜の提供をお願いしたことで、グループで活動する機会が増え、生きがいとなっている。コミュニティ醸成までの、居場所の提供になればと、各種イベントを企画・運営。

○その他の要因

コミュニティ広場運営（喫茶店）、貸スペースの提供、園芸広場や市民の公園「花画廊」の提供、「自間学かふえ」の開放、イベント開催（春祭り「ふれあい動物園」・夏祭り「盆踊り」・創設記念感謝祭）、教育委員会中高生夏休みゼミの開催、ボラ活・視察ツアー受入れなど

甚大な犠牲者と壊滅の状況下、まちづくりは長期化すると直感。「これ以上一人たりとも二次的犠牲者を絶対出してはならない！」をコンセプトに、喫緊に必要なものはコミュニティの空間！併せて、被災した事業者が恒久的本設までの間の助走期間、取り敢えず仮設店舗での営業を支援する目的で、“再生への足掛かり”を基本理念に被災者主体で立ち上げた。

陸前高田市内各町青年団体の活動協力

震災に関係なく、若者の参加が減少し活動が困難であるため。協力しながら既存のイベントを開催。

陸前高田市における保健医療福祉を切り口とした健康づくりやコミュニティづくりに関するハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを考え続ける場として活動を継続

被災直後、誰もが保健医療福祉に関する情報を持ち合わせておらず、その現状の把握と支援の偏りを無くすと同時に、中長期の単位でいまとこれからを考える場が必要と考え開催されることとなり、以来、毎月1回継続して実施している。

仮設住宅や復興住宅でのコミュニティ形成に関する支援、伝統行事やイベントの実施支援、子どもの学習支援など

陸前高田市の仮設住宅や災害復興公営住宅において、入居者の孤立を防ぎ、コミュニティ形成を支援するための活動を行うことを設立以来目的としている。また、地域社会においては伝統行事やイベントの実施支援、子どもの学習支援等を通して、震災で失われた陸前高田市のコミュニティ再生の一助となることを目指している。

被災者の生活再建等に係る相談対応（電話及び週1回市役所窓口での対応）

平成23年7月、県が被災者の生活再建を推進するための総合窓口として設置。

地域福祉活動の推進、在宅福祉活動の推進、各福祉団体事務局、各種相談窓口、情報提供

主な活動については、震災以前の活動を継続。

- ・震災により、仮設住宅で生活されている方々への見守り訪問やサロン活動を実施（2011年～）。
- ・公共交通機関等の利用が困難な方々への支援として、移動支援事業を実施（2015年7月～）。

子ども支援に関わる方への研修会の開催、お父さん支援員活動への支援、里親子支援のための研修やシンポジウムの開催、遊び場・居場所づくりのためのプレーカー・プレーリーダーの派遣、保養プロジェクト・沿岸と内陸との交流事業・沿岸でのレクリエーション事業

当方の活動方針と現地のニーズが一致。

陸前高田市や団体への当方からの働きかけと、対話による課題の把握から、具体的な内容を調整。

他団体が主催する「子どもまちづくりクラブ」への印刷物の提供、資金面での支援

2011年に高田高校において、高校生が将来の街づくりを検討するワークショップ「学生復興会議」を開催。この活動が一過性のもので終わることなく、子供達の声を継続的に街づくりに反映していただきたいとの思いから、「子どもまちづくりクラブ」を支援。

○カテゴリ記載なし

住宅・生活再建のための勉強会と相談会、女性のエンパワーメント

※詳細の記述なし

水産高校への奨学金支援、学童指導員の研修実施・学童指導員の記録集配布、「子どもまちづくりクラブ」の定期的な実施とそれに伴う「地域報告会」の実施など

東日本大震災直後から、子どもたちと家族の日常性の回復を目指すと同時に、地域の復興に向けたまちづくりに、子どもたち自身が声をあげ、参加できるような活動を行っている。

2011年5月～6月にかけて岩手県・宮城県の子どもたちに行った調査の結果、たくさんの子どもたちが「子ども同士で話し合ってまちのために何かしたい」と考えていることが分かった。この子どもたちの声を受けて「子どもまちづくりクラブ」を開始。小学5年生～高校生の子どもたちが定期的に集まって、子ども同士だけでなく地域の方や行政、専門家とも話し合いながら、地域の復興に向け様々な活動に取り組んでいる。

法律相談、弁護士業務全般、講演会・勉強会・説明会講師等

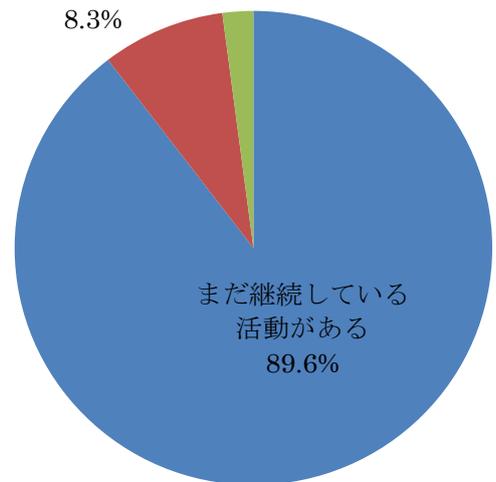
岩手弁護士会、日本弁護士連合会による法律事務所の設置。

2. 支援の継続状況

まだ継続している活動がある	89.6% (43 団体)
すべての活動が、途中で終了している	8.3% (4 団体)
無回答	2.1% (1 団体)

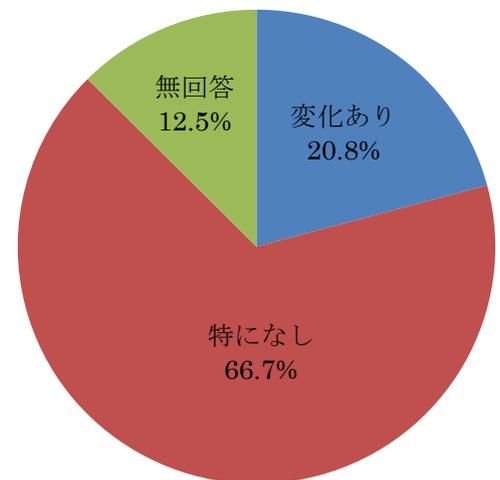
すべての活動が、途中で終了している 8.3%

無回答 2.1%



3 支援内容の変化

変化あり	20.8% (10 団体)
特になし	66.7% (32 団体)
無回答	12.5% (6 団体)



- 対象期間中の支援内容に大きな変化はなかったと回答した団体が多い。

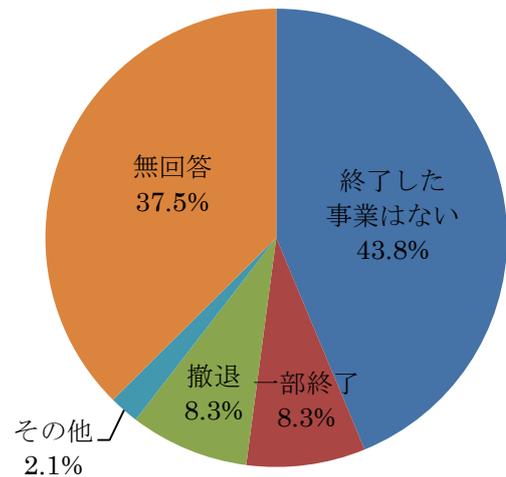
○時系列の変化集計（表右側の【】は回答団体の支援カテゴリ）

2015年2月	<ul style="list-style-type: none"> 仮設住宅から災害公営住宅等への引越し応援の依頼が現地スタッフに届き、対応可能なものは対応し始めている。その他、高台移転や別の仮設住宅へ移るための引越し。引越しの経験がほとんどない高齢者宅のお手伝い。通算で20回程度。軽自動車ですら1~2往復程度の物量（主に冷蔵庫・テレビ・洗濯機など） リフレッシュツアー（宗教法人からのご寄付をもとに）の財源確保が減少し、4・5月は休止し、6月以降に参加費を値上げして実施中（ニーズは高い）。 災害公営住宅のコミュニティづくりのきっかけづくりとして、民間助成を受けてサロン（うまいもの交流会、カラオケ大会など）を9月から開始。 	<p>【生活】</p> <p>【コミュ】</p> <p>【ボラ】</p> <p>【収】</p>
	<p>2ヶ月おきに大小合わせて年間6回程度のイベントを開催してきたが、周年イベントと夏祭りの年2回のみ。</p> <p>年1回の周年企画および定期的な企画を助成金を利用して実施していたが、商業者への単純なイベントに対する助成制度が減少したことや、企業から支援の提案が減少したことにより、イベントの実施回数が減少している。また、商店街会員である各事業者が従業員の減少・担い手不足等で自店舗の運営だけで手一杯となっている。</p>	<p>【他】</p> <p>【コミュ】</p> <p>【情】</p>

2015年3月	子どもたちの居場所を運営しているが、ほとんど利用する子はいなくなった。 小友町外から来た子どもたちも1年も経つと友達を作り、わざわざ私たちの場所に来て利用する必要がなくなっており、いい傾向だと思っている。	【子全般】
2015年4月	ソーシャルビジネスの重要性を認識。 発災から4年を経過し、本格的な復興への支援の仕方を再考すべき時を迎えたと認識。	【場】 【収】
2015年7月	フェーズにあわせた課題・テーマを鮮明にして分科会等を開催しながら、より地域の実態にあわせた、日頃の活動に活かされる内容を目指して実施してきたが、市が掲げるノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりのアクションプラン策定にかかる議論を平成26年度に実施したことを契機に、市の健康づくり推進計画の議論の機会として会議の場を活用しながら、より中長期を見据えた議論も活発化させている。 震災から5年が経過し、まち全体も住環境が具体的に大きく変化しようとしている等、次のフェーズに移ることが明白である。これまで以上に、目の前にある課題に向き合い続けるだけでなく、地域づくりを通じた健康づくりをどういう方向性をもって推進していくのか、誰もが目標を共有できるよう、より具体的に議論をし形にしていくことの必要性、重要性が出てきていると考える。	【保・医】 【福】 【子育て】 【子全般】 【コミュ】
	仮設住宅の修繕などの住環境整備から、2か月に1度のバスツアーへ。 仮設住宅から引っ越しをする方も増え、修繕や住環境整備の依頼も減ってきた。	【住】 【コミュ】 【ボラ】 【生活】
2015年9月	特に小友地域の方に、自立再建を行い仮設から出ていく方が増えてきた。それに伴い、コミュニティ支援も仮設のみならず地域へと変化していった	【コミュ】 【窓・取】 【生活】
2015年10月	外部の若者との交流による町の担い手創出で、一番大切なものを定め、今までの活動で育ててきたメンバーと相談の上、今までの3倍の人員を導入し、成果を大きく出せるようにした。	【他】 【収】 【子全般】

4 支援の終了状況

対象期間内で終了した事業はない	43.8% (21 団体)
陸前高田で展開してきた活動の一部を終了 (継続している活動も有)	8.3% (4 団体)
陸前高田での事業をすべて終了し撤退 (団体としての活動は継続)	8.3% (4 団体)
その他	2.1% (1 団体)
無回答	37.5% (18 団体)



一部終了	災害公営住宅のお茶っこサロン	【コミュ】
	引継ぎなし。地元の方も必要性を感じ当初ご依頼があったが、平日実施を希望しており、私たち遠方からの土日の支援ではマッチングに至らなかった。	
	球根、花苗の配布	【コミュ】
	引継ぎあり。地元団体での花手配が可能になった事と支援団体の球根支援の活動が終了した。	
	広田小仮設の移動図書館	【他】
	引継ぎなし。仮設住民の減少に伴い 2015 年 12 月で終了。	
一部終了	学童指導員の研修実施、「子どもまちづくりクラブ」の定期的な実施	【子全般】
	引継ぎあり。事業計画上、2015 年 12 月末での終了を掲げていたため。	

すべて終了	関連事業のフォローアップ	【他】
	引継ぎなし。陸前高田を中心に活動をしてきた 7 事業の内、特に支援団体調整と現地 NPO の基盤整備について、数団体・ネットワークとの会合、直接対話を通じて、関連事業のフォローアップを実施してきたが、事業として終了する時期が来た、および助成期間が終了した。	
	「走る! KnK 子どもセンター」による居場所づくり活動、地域交流会、遠足	【子全般】
	引継ぎなし。利用者数が減り、事業計画上 2016 年で終了を予定していたため。	
	気仙広域環境未来都市の医療介護保健福祉連携のための調査等	【保・医】
	引継ぎあり。支援団体の手を離れて、地元の方々に運営されるようになったため。	
すべて終了	「子どもまちづくりクラブ」への支援	【子全般】
	引継ぎなし。当初の計画通り、5 年間のプロジェクトとして終了。	

5 地域にもたらした変化

2015年2月	<p>継続的な支援の中で、参加者同士のつながり・連携団体と地元団体といった団体間とのつながりができた。研修で学んだことを地域や活動で生かし実践していることなど、「支援」が地域の力になってきている。</p> <p>活動内容が少しずつ浸透し広まることにより、ニーズが増えたものがある。活動を通じて、知ること・気づくことから子どもへの関わり、子どもを取り巻く環境について考えるきっかけが増えた。</p>	<p>【キャパ】 【子全般】 【子育て】</p>
2015年4月	<p>住民の地域づくりへの主体性が向上したと感じる。</p> <p>2014年から高田地区で話し合いの場を継続開催しているが、当初は行政等への要望が強い傾向があったが、この時期に参加住民発案の住民アンケートを実施。この後から、話し合いの内容が「自分たちでできることは何か」に変化した。小さな変化だが、これを今後も積み重ねたい。</p> <p>他地域の復興の状況・情報を求められるようになった。</p> <p>ある地域の会議に出席した際にあった事例だが、近隣の市町村の復興の状況や行政の取り組みなど、情報を求められることが増えてきた。</p> <p>介護予防講座の修了者が、OB会を作り活動を始めた。減塩食の継続指導により、意識が変わってきている雰囲気がある。</p> <p>また、各イベント参加者より、顔馴染みができたり、次回の要望を寄せられたり、楽しみにして頂いている。</p>	<p>【窓・取】 【キャパ】 【情】 【場】 【他】 【情】 【保・医】 【コミュ】 【子育て】 【場】</p>
2015年5月	<p>お茶会の活動が、他の支援団体にも知られ、お茶会での連携や協働企画・参加・見学希望の依頼が増えてきた。</p> <p>以前にも増してコミュニティの強化支援に、お茶会が重要であると住民や支援団体に浸透してきている。新たにお茶会を開催して欲しいという声や、お茶会を通してコミュニティ支援をしたいという団体からの問い合わせがある。また、「仮設へ支援をしたいが、今まで問い合わせ先が分らなかった」と個人からの相談も増えている。</p>	<p>【コミュ】 【情】 【他】</p>
2015年6月	<p>これまでは、当団体および継続支援している県外団体が主体で段取りをして花壇作りを行ってきたが、次第に住民主導によって花壇作りができるようになってきた。資金確保なども現地の代表が行うなど、自立してきた。</p> <p>子どもの主体的な意識の芽生え。復興に向けたまちづくりにより多くの子どもたちが参加できる環境をつくろうと、大人の意識が変わってきている。</p> <p>自分の住むまちのために何かしたいという思いを具現化する機会を提供することで、子どもたち自身の主体的な行動を促し、子どもの成長、エンパワーメントにつながり、それが子どもたち自身の被災からの回復につながっているとの意見・考察は、専門家から関係者まで数多くある。</p> <p>また、以前から様々な地域の方々のご協力のもと実施されてきた子どもまちづくりクラブであったが、陸前高田市教育委員会から新市立図書館について様々な協力の依頼があったり、活動の異なる形での継続に向けて、12月の最終活動報告会後には地域関係者からも子ども参加によるまちづくりの進め方について相談が寄せられるようになり、より多くの子どもたちが復興に向けたまちづくりに参加できるよう、大人の意識が変わってきている。</p> <p>地元の起業家たちが集まって、新たな価値を見出すきっかけを作ることが出来た。国として地方創生を本格的に検討開始し、小規模事業者の支援に目を向けられるようになってきた。</p>	<p>【コミュ】 【キャパ】 【子全般】 【キャパ】 【物】 【他】 【場】 【収】</p>

2015年7月	<p>市の健康増進計画である健康づくり推進計画について議論を行ったことで、各関係団体だけでなく各団体を通じて、地域づくりを通じた健康づくりについて大きな方向性を確認できるようになってきている。</p> <p>震災後5年ぶりに、健康づくり推進協議会や健康のつどいの開催につながり、これからの陸前高田市における地域づくり・健康づくりを具体的に考える機会・きっかけとなった。</p>	<p>【保・医】</p> <p>【福】</p> <p>【子育て】</p> <p>【子全般】</p> <p>【コミュ】</p>
	<p>地域交流会への地域の方々の積極的な参加。開始当初は、子どもが大人と離れてしまうなど交流が難しく感じたが、イベント内容を、地域の方々が先生になる郷土料理教室・子どもたちが企画/準備/運営した夏祭りなど工夫することで、自然に交流が生まれ地域の方々も会に積極的に参加し、子どもたちと話す様子も見られ、また子どもたちも自分から進んで質問や会に参加する様子が見られた。</p>	<p>【子全般】</p>
	<p>ボランティアが一次産業を手伝うことにより、地元の方が活気付き、モチベーションがあがる。外国人や県外の若い人が地元滞在することで、交流が生まれる。外国人や英語が話せる日本人が児童館などで子どもと接することにより、子どもたちが英語に興味をもったり、異文化交流・異文化理解につながる。</p>	<p>【子全般】</p> <p>【産業】</p>
	<p>2015年は嵩上げ工事の影響もあり、七夕の山車の運行が危ぶまれていたが、地元の方々の強い想いにより運行することができた。この「強い意志」は、震災後も継続して祭りを開催してきた地元の方々と、当社を含めた、たくさんのボランティアが一緒になって七夕を作ってきたことにより醸成されてきたと感じている。</p>	<p>【コミュ】</p> <p>【ボラ】</p>
	<p>県立高田高校との連携企画の実施で、高校生が陸前高田市内の企画へ参加する機会が増えた。市内2仮設商店街と高田高校の合同企画を実施したことにより、高校生が地域社会に関わるきっかけを創出できた。県内内陸の企業と連携し、高校生が自ら企画・ものづくり・販売をすることができる機会を創出できた。</p>	<p>【他】</p> <p>【コミュ】</p> <p>【情】</p>
2015年9月	<p>仮設住宅・在宅・災害復興公営住宅・自力再建・集団移転の垣根を取り払う活動を行っている。きっかけの場になっているという声が聞えるようになってきた。</p>	<p>【コミュ】</p> <p>【窓・取】</p> <p>【生活】</p>
	<p>職員(=被災者)が起業をすることを決意した。地域内外からの相談・連携案件が増えた。2015年9月頃、職員から現在取り扱っている商品を活用し起業したいと相談を受け、サポートを行っている(2016年2月に創業予定)。被災者かつ女性の起業家が生まれたことはイノベーションだと感じている。</p> <p>相談については所謂ソーシャルビジネスや政策戦略レベルの相談が増えたと感じている。</p>	<p>【雇・生】</p>
	<p>子どもの教育に興味のある市民からお手伝いをいただいた。花による癒しを体験した方が、継続して受けられるようになった。ボランティアを募り行っているが、活動の内容を理解していただいた方から、作品選考などに市民の手を借りて活動出来た。花による癒しに喜ばれた方が、今までこんなにじっくりと花を見る事が無かった事に気づき、ゆっくりゆったりとした時間を花を使って取れた事に感動し、継続して美を楽しむ生活を続けている。</p>	<p>【コミュ】</p> <p>【子全般】</p>
	<p>様々な団体・機関と顔を合わせて話をする機会や、研修会の講師依頼などをいただくようになった。子どもについての相談や、地域でどのようなかたちで協力(連携)して子どもたちを支えていけるかなどを話す機会が増えた。市立図書館や民生委員等の研修会、高田診療所メモリアル講演会において子どもへの寄り添いや子どもの状況などについて講師依頼を受けることなどがあった。</p>	<p>【子全般】</p>

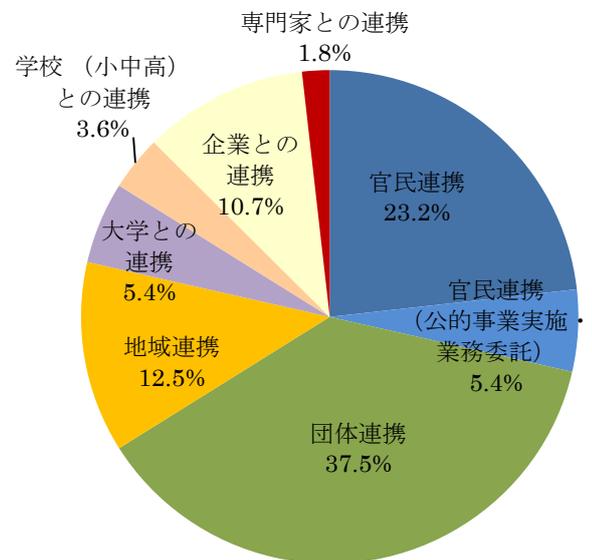
2015年10月	<p>バスツアーの参加者がリピーターだけでなく、口コミで広がって初参加の方も増えてきて、参加者間の交流も生まれてきた。</p>	<p>【住】 【コミュ】 【ボラ】 【生活】</p>
	<p>災害復興公営住宅（近隣住民の参加も可）で始めたサロン活動で、災害復興公営住宅以外からの参加が見受けられる。従来（特に仮設住宅の4年間）のつながりが大きいことが伺える。入居が本格化してきた災害復興公営住宅（あるいはその近隣地域と）のコミュニティづくりの必要性を感じる。自治会長をサポートするNPO等の関わり方や集会室備品がないことは、コミュニティ再生の障害になっていて、行政サイドからの早急な手立てが必要と感じる。</p>	<p>【生活】 【コミュ】 【ボラ】 【収】</p>
	<p>より多くの地元住民が協力的になった。 （外部の若者の受け入れや民泊受け入れ許可など）</p>	<p>【他】 【収】 【子全般】</p>
2015年11月	<p>地域住民からだけでなく、行政や他団体からの様々な分野での協力、または相談が寄せられている。地域住民から様々なニーズが寄せられていたが、住民だけでなく事業縮小や撤退する他団体から、事業の引き継ぎや新たなニーズへの対応などの相談をいただいている。</p>	<p>【子全般】 【ボラ】 【他】</p>
2016年1月	<p>認知度が上がった。他大学の団体と比べて活動頻度が少なかったためか、他大学と間違われることが多かったが、自分たちの大学を認知されるようになった。</p>	<p>【コミュ】 【生活】 【教】 【子全般】</p>
その他	<p>期間を通じて、各組織それなりに苦労しながらも、前向きに継続できてきた（外部団体の撤退が相次いでいる中で）と思うが、本来目指していたNPOと行政の距離が必ずしも縮まったとは言えないのは残念。ただし、これからも継続して存在感を増すNPOが育っていく素地は出来てきたと言えるのではないかな。</p>	<p>【他】</p>
	<p>当施設に集まる人が市内・市外両方とも開館当時から増えている。 様々な人に認知され、雛祭りを見に来る人、布ぞうりの講習会に来る人、子供向けのイベントに来る人などが増えた。その中から新たな繋がりや企画が生まれることもあった。</p>	<p>【子全般】 【収】 【コミュ】 【場】 【情】</p>
	<p>5年が経過して役割を終えたのでは・・・しかし防災集団移転等の生活再建がようやく始まったばかり、街並みの姿も未だ先、ひとりでも必要とするのならとコンセプトに沿って継続が余儀なくされている。 “園芸広場”でコミュニティが広がったり、「あの畑に行くと誰かに会えるから行ってみるんだ！」と云って、心の一步を踏み出した人がいる。新たなデートスポット“花画廊”で植樹祭など交流が広がった。自治会や仮設住民と共催してのイベント開催で住民交流や交流人口拡大に繋がった。中高生の空間“自間学かふえ”が利用されている。</p>	<p>【コミュ】 【住】 【子全般】 【雇・生】 【産業】</p>
	<p>相談内容が、災害復興公営住宅の建設と共に変遷してきている。</p>	<p>【法】</p>
	<p>防災集団移転促進事業による造成地の引渡しや災害復興公営住宅の入居開始時期前に、相談が多く寄せられている。公的支援制度（住宅再建に係る各種補助金及び災害復興公営住宅移行に係る引越し補助金等）</p>	<p>【窓・取】 【情】</p>
	<p>参加した子供たちの自主性が高まったと伺っている。</p>	<p>【子全般】</p>

6 連携事業

※ 事業の内容で、対象となる連携要素は複数カウントしています。

例) 専門家が団体と組んでイベントを実施、行政の参加もあった場合→団体連携・官民連携（専門家による回答）

連携の内容	% (件数)	備考
官民連携	23.2% (13 件)	・ 1 件は専門家による回答
官民連携（公的事業実施・業務委託）	5.4% (3 件)	・ 1 件は大学による回答
団体連携	37.5% (21 件)	・ 1 件は専門家による回答
地域連携	12.5% (7 件)	
大学との連携	5.4% (3 件)	
学校（小中高）との連携	3.6% (2 件)	
企業との連携	10.7% (6 件)	
専門家との連携	1.8% (1 件)	
商業者との連携	0% (0 件)	



<参考>官民・団体・地域連携事例のうち、いくつかの事例の紹介

○官民連携

- ・ 仮設住宅弁護士派遣業務
- ・ VISIT TAKATA プロジェクト 他

○団体連携

- ・ 「陸前高田 NPO キャラバン in 東京」の実施
- ・ 地域交流会
- ・ お茶っこ・サロン事業
- ・ 遊び場支援 他

○地域連携

- ・ コミュニティのエンパワーメント事業
- ・ 高田地区市民会議 他

以上